

関西大学文学部国文学科五十年表

五

大正十三年四月、関西大学専門部に文学科が設置された。当時のスタッフには、詩人として知られていた服部嘉香教授のほか、

英文学者で劇作家の坪内士行講師、同じく劇作家として囑望されていた豊岡佐一郎講師等がいた。第一回卒業生には、劇作家の

北條秀司や吉永登文学博士がいる。その後、昭和三年六月一日から、専門部国文学科は国漢文専攻科と英文専攻科とに分かれた。国語の方は、新町徳之先生を中心とし、吉沢

義則、平林治徳、江馬務、佐伯梅友、山脇毅等の諸先生が、時期は少しずつずれが見えた。漢文の方は、黄坡藤沢章次郎先生を中心として、石浜純太郎、西田長左衛門、

岡本勝治郎、高橋盛孝等の諸先生がおられ

た。昭和十二年九月七日には、同年三月以降の卒業生に対して中等教員無試験検定資格が許可された。

昭和二十三年（一九四八年）

三月二十五日、文学省は学校教育法による新制大学の設置を認可。

四月一日、新制大学発足。文（国文・英文・哲学科）、法（法律・政治学科）、経、商の四学部開設。

四月十七日、入学式。

教授

国文学（近古）国文学史 飯田 正一

国文学（上古及中世）日本文学 吉永 登

国文学演習、日本文学 金子又兵衛

員外教授

国文学（近古） 顕原 退蔵

講師

国文学（中世） 榊原 美文

国文学（中古） 山脇 毅

国文学（近古） 澤瀉 久孝

国文学（近世） 吉永 孝雄

国文学（近古） 秋本 吉郎

六月二十六日、国文学研究部創立。

七月十九日（二十一日）、国文学研究部主催

夏季講座を開催（三日間）。

第一日 住劫

甲南高校教諭 小田 良弼

上代文学と遊仙窟

本学教授 吉永 登

第二日 文学史の反省

本学講師 秋本 吉郎

終戦後の文学

本学講師 榊原 美文

第三日 好色一代男

本学教授 金子又兵衛

源氏物語夕顔の巻

本学教授 飯田 正一

八月三十日、員外教授額原退蔵が尿毒症にて死去（享年五十五歳）。

十二月十三日、本学名誉教授藤沢章次郎死去。享年七十三歳。

十二月十四日、十八日、冬季文学講座を近代文学研究部と共催にて開く。

第一日 文学の本質とリアリズム

教授 堀 正人

ロマンチズムからリアリズム

講師 榊原 美文

第二日 リアリズムの発展

教授 中井 駿二

近代文学の写実精神

教授 飯田 正一

第三日 日本自然主義文学

日本文学協会 広橋 一男

現代詩に於ける新精神

日本民族詩研究所長 藤本 浩一

第四日 源頼朝か義経か

文博 中村 直勝

萬葉集の地理

前関学教授 北島 霞江

第五日 リアリズムと戯曲

三高教授 大山 定一

昭和二十四年（一九四九年）

四月一日 小島吉雄、員外教授に就任。

昭和二十四年度、国文学科授業担任は次の如くである。

日本漢学史、東洋史概説 石浜純太郎

言語学 岩倉 具実

国文学史 演習 飯田 正一

近世文学 演習 金子又兵衛

近古文学 小島 吉雄

近代文学 榊原 美文

支那文学史、支那文学作品研究 高橋 盛孝

支那哲学史 壺井 義正

文学概論 中井 駿二

国語学概論 林 和比古

支那文学作品研究 福島 俊翁

中古文学 山脇 毅

日本史概説 魚澄惣五郎

近世文学 吉水 孝雄

上古文学、中古文学 吉水 登

七月十日午後一時より、国文学会創立総会

並に記念講演会が天六学舎において舉行された。総会は、富田恭二郎（二部四年次）

の開会の辞に始まり、議長に門野勝美（二部四年次）を選出し、規約を審議、役員

（藤本浩一〈昭2・専国〉、相原恭郎〈昭12、専国〉、北村学〈昭14、専国〉、泉亮

一〈昭18、専国〉、村上卯之助〈昭19、専

国〉、富田恭二郎〈学部4年次〉、栗林章

〈学部4年次〉、岩崎猛〈学部3年次〉、

土部弘〈学部3年次〉を選出。出席者約五十名。

国文学会創立記念講演会は次の順序によつて行われた。

祝辞 学長 岩崎 卯一

萬葉集「本名言」考 教授 吉永 登

西鶴と茶の湯 教授 金子又兵衛

書翰体小説 教授 飯田 正一

七月十八日―二十三日、国文学会創立後最

初の事業として、国文学夏季開放講座を天

六学舎において六日間開催。聴講者約百五十名。

第一日 石川郎女一人と作品―

教授 吉永 登

西鶴「男色大鑑」

教授 金子又兵衛

第二日 上代人の文学表現

講師 小島 憲之

〔和漢朗詠集〕

第三日 「堤中納言物語」 講師 秋本 吉郎

漱石「草枕」

講師 榊原 美文

第四日 文学と象徴 教授 堀 正人

中世叙事文芸的特質

講師 釜田喜二郎

第五日 近松「長町女腹切」と黙阿彌

〔縮屋新助〕

貝外教授 小島 吉雄

狂言の世界 講師 吉永 孝雄

第六日 現代の支那文芸

教授 高橋 盛孝

西鶴「本朝二十不孝」

教授 飯田 正一

十一月十三日、国文学会、国文研究部主催

による、吉野萬葉旅行が行われた。吉永登・

飯田正一・横田健一教授指導の下に、国文

学科、史学科をまじえた学生三十三名が参

加。

十一月二十日、国文学研究部主催古典劇鑑賞。歌舞伎座で、「次郎吉備悔」を観劇。

小島吉雄、飯田正一、金子又兵衛教授はか

十数名参加。

十二月四日、藤沢章次郎名譽教授追悼の学術講演会が天六学舎で次のとおり開催された。

司会 教授 飯田 正一

開会の辞 教授 壺井 義正

挨拶 学長 岩崎 卯一

挨拶 文学部長 大小島真二

講演 大阪の祭 教授 高橋 盛孝

講演 山上憶良 教授 吉永 登

講演 泊園書院の学術

教授 石浜純太郎

閉会の辞 教授 金子又兵衛

十二月末、国文学科在籍学生数は次のとおりである。

年次	第一部	第二部	計
	第一年度	第二年度	第三年度
部別	二四名	一五名	一四名
第一年度	二三名	一四名	一三名
第二年度	三三名	二三名	二四名
第三年度	三四名	二四名	二三名
第四年度	三三名	二三名	二四名
計	一八〇名	一三六名	三六六名

昭和二十五年(一九五〇年)

一月二十五日、「関西大学国文学会会報」

第一号(全8頁)を發行。

三月十九日、伊賀上野に芭蕉旅行。菊山當

年男の説明、林和比古の案内。

四月一日、澤瀉久孝員外教授に就任。

昭和二十五年国文学科講義題目は次のとおりである。

国文学史(小説史) 飯田 正一

国語学概論(国文法の諸問題)

林 和比古

国文学作品研究

上古文学(萬葉集卷十三) 吉永 登

同 (伝承歌の成立) 同

中古文学(源氏物語須磨卷)

山脇 毅

同 (源氏物語若紫卷)

吉永 登

近古文学(新古今集)

小島 吉雄

近世文学(好色一代男)

金子又兵衛

同

吉永 孝雄

近代文学(近代小説)

柗原 美文

支那文学史概説(中国の神話と伝説)

高橋 盛孝

支那文学作品研究

壺井 義正

同

福島 俊翁

国文学演習(万の文反古)

飯田 正一

同(モールトン文学論)

金子又兵衛

国語講読(竹取物語)

小島 憲之

五月二日、文部省から関西大学大学院修士

課程国文学専攻の開設が認可された。

五月十日、関西大学国文学会誌「国文学」

第一号(全84頁)を發行。

六月五日、関西大学大学院入学式を挙行。

国文学専攻の入学者は十四名。昭和二十五

年度講義題目は次のとおりである。

人麻呂研究(講義)

澤瀉 久孝

萬葉集卷十(演習)

澤瀉 久孝

日本文学論の変遷(講義)

小島 吉雄

去来抄(演習)

飯田 正一

連俳研究(演習)

金子又兵衛

六月十一日、関西大学国文学会春季総会・

研究発表会を天六学舎で開催。

幻住庵記中の「萬葉集の姿」

神堀 忍

萬葉集一五四の「山爾標結」について

衛藤 兵衛

奈良朝の特殊語法「ズハ」について

吉永 登

西鶴の近代性

富田恭二郎

西鶴近松馬琴の恋愛観

栗林 章

十月十五日、大津方面(石山寺、幻住庵、

義仲寺等)に芭蕉研究旅行を行う。飯田正

一、金子又兵衛教授指導の下で、参加者約

四十名。

十月三十日、「国文学」第二号（全102頁）を發行。

十一月二十三日、吉水登教授の指導により、専門学生を主とし、大和桜井方面に萬葉研究旅行。参加者十数名。

十一月二十五日、関西大学国文学会研究発表会を千里山学舎で開催。

斎藤茂吉の方法

谷澤 永一

芥川龍之介の恋愛観

石渡一三五

「好色一代女」老女の隱家の挿絵について
中野 眞作

十二月一日、午後四時より関西大学国文学会主催の講演会を大学院において開催。講演・高木市之助「日本文学の古代性」。

十二月三日午後二時より、関西大学国文学会主催の講演会を天六学舎において開催。

講演・遠藤嘉基「国語問題」。

十二月九日、関西大学国文学会研究発表会を千里山学舎において開催。

「奥の細道」に於ける芭蕉と西行との詩

魂の交流について

小西愛之助

植葉和歌集について

吉水 登

若き啄木の悩み―呼子と口笛について―

野村 董

十二月二十二日―二十七日、冬季文学講座

を関西大学国文学会・近代文学研究部と共同で天六学舎において開催。

T・S・エリオットの文学論

堀 正人

萬葉集「明去来理」考

澤瀉 久孝

「時しく」考

吉水 登

トーマス・マンについて

渡辺 格司

連歌の方式について

小島 吉雄

芭蕉について

金子又兵衛

現代フランス文学の動向について

三木 治

平家物語の描写

飯田 正一

鷗外と逍遙の論争

榊原 美文

昭和二十六年（一九五一年）

一月十九日、関西大学国文学会研究発表会

を千里山学舎において開催。

を千里山学舎において開催。

「みだれ髪」における王朝憧憬

的場 勝

新古今集と定家の歌論

鍋島 直文

一月二十四日、関西大学国文学会研究発表会を千里山学舎において開催。

現代俳句の諸傾向

小島 龍夫

愚管抄における言語意識

神堀 忍

式子内親王について

鍋島 直文

二月十日、「国文学」第三号（全84頁）を發行。

昭和二十六年年度講義題目は次のとおりである。

大学院

萬葉集作者と作品攷、第一期より第二期

へ（講義）

萬葉集卷十（演習）

連歌論（講義）

去来抄（演習）

連俳研究（演習）

澤瀉 久孝

澤瀉 久孝

小島 吉雄

飯田 正一

金子又兵衛

学部

第一部

国文学史(小説史)

飯田 正一

近世文学(近松)

吉永 幸雄

右京大夫集の抒情性

飯田 正一

近代文学(近代詩)

榎原 美文

明治中期の大阪文壇

小島 吉雄

国文学作品研究

国文学演習(一)(モールトン文学論)

金子又兵衛

六月十日、「国文学」第四号(全72頁)を
発行。

上古文学(萬葉集)

澤瀉 久孝

同 (二)(西鶴諸国咄)

飯田 正一

七月七日、関西大学国文学会研究発表会を
千里山学舎において開催。

中古文学(源氏物語)

吉永 登

国語学概論

林 和比古

七月七日、関西大学国文学会研究発表会を
千里山学舎において開催。

近古文学(新古今集)

小島 吉雄

国語講読

秋本 吉郎

千里山学舎において開催。

近世文学(西鶴置土産)

金子又兵衛

四月一日、澤瀉久孝、関西大学文学部教授
に就任。

「風俗小説論」について 谷澤 永一
七月八日、風俗研究所(江馬務主宰)を見
学。

近代文学(近代詩)

榎原 美文

五月十三日、関西大学国文学会総会・研究
発表会を天六学舎において開催。新年度の
会長に澤瀉久孝教授を選出。

九月三十日、「国文学」第五号・上代文学
特輯(全64頁)を発行。

国文学演習(一)(モールトン文学論)

金子又兵衛

同 (二)(大鏡)

十月九日、関西大学国文学会講演会を大学
院において開催。

同

吉永 登

来山と稿本「津の玉柏」

飯田 正一

作家と作品 風巻景次郎
十月十九日より、各部会において毎週左の
如く輪読会を開く。

国語学概論

林 和比古

「はしたての」小考

神堀 忍

作家と作品 風巻景次郎
十月十九日より、各部会において毎週左の
如く輪読会を開く。

国語講読

田中 健三

憶良と日本背紀

吉永 登

作家と作品 風巻景次郎
十月十九日より、各部会において毎週左の
如く輪読会を開く。

第二部

国文学史(小説史)

飯田 正一

連体修飾語格から主述語格へ

土部 弘

如く輪読会を開く。

国文学作品研究

飯田 正一

連体修飾語格から主述語格へ

土部 弘

如く輪読会を開く。

上古文学(萬葉集)

澤瀉 久孝

六月二日、関西大学国文学会主催の講演会

上古「萬葉集」巻一、「古事記」上

中古文学(源氏物語)

山脇 毅

を朝日新聞大阪本社講堂において開催。

中古「伊勢物語」

近古文学(新古今集)

小島 吉雄

巫女の歎き

吉永 登

近世 近松「傾城反魂香」

近代 正宗白鳥「作家論」

十二月一日、関西大学国文学会研究発表会
を千里山学舎において開催。

斎藤茂吉の作歌態度

谷澤 永一

平家物語の和歌

神堀 忍

一節切

中野 眞作

昭和二十七年（一九五二年）

二月十日、「国文学」第六号（全64頁）を
発行。

二月、北條秀司（本名・飯野秀二、昭和2
年卒）が第四回毎日演劇賞を受賞。

昭和二十七年年度講義題目は次のとおりであ
る。

大学院
柿本人麻呂（講義） 澤瀉 久孝
萬葉集卷十（演習） 澤瀉 久孝
明治歌論史（講義） 小島 吉雄
好色盛衰記（演習） 飯田 正一
連俳研究（演習） 金子又兵衛

学部

第一部

国文学史

飯田 正一

近代文学（小説）

榎原 美文

国文学作品研究

国文学演習（一）（モールトン文学論）
金子又兵衛

上古文学（萬葉集卷十）

澤瀉 久孝

同（二）（世間胸算用） 飯田 正一

中古文学（源氏物語葵巻）

吉永 登

国語学概論

林 和比古

近古文学（新古今集）

小島 吉雄

国語教授法

西山 隆二

近世文学（好色一代男）

金子又兵衛

国語（伊勢物語）

秋本 吉郎

近代文学（小説）

榎原 美文

国文学演習（一）（モールトン文学論）

五月二日、第一部国文学研究部総会を千里
山学舎において開催。

同（二）（記紀歌謡）

金子又兵衛

国語学概論

吉永 登

五月十日、関西大学国文学会・萬葉学会共
催で第二回公開講演会を大阪朝日新聞社講
堂において開催。聴講者約四百名。

国語教授法

林 和比古

国語（枕草子）

西山 隆二

第二部

吉永 登

国文学史

飯田 正一

国文学作品研究

萬葉より萬葉へ 澤瀉 久孝
上代漢文学の一考察 神田喜一郎

上古文学（萬葉集卷十）

澤瀉 久孝

中古文学（源氏物語）

山脇 毅

近古文学（新古今集）

小島 吉雄

近代文学（新古今集）

小島 吉雄

人麿長歌の位置

澁谷 虎雄
清水 克彦

青雲考

吉井 巖

「故奈乃思良欄爾」補説私案

富田 大同

卷十六「伊夜彦」復原私考

和田 徳一

海宮訪問説話について

守屋 俊彦

入声音より見た人麻呂の用字法

三吉 陽

五月十二日より毎週左の通り輪読会を開催。

上古(月・水)

古事記上・萬葉集卷一

中古(月)

伊勢物語

近世(水・木)

近代艶隠者・野ざらし

紀行

近代(火)

島崎藤村(小説)

五月十九日、関西大学国文学会講演会を大学院において開催。

近世町人文化の生成

暉峻 康隆

西鶴に関する二三の問題について

野間 光辰

五月二十三日、関西大学国文学会研究発表

会を図書館において開催。

近代文学の一性格

岡沢 忠男

萬葉集の法制二つ

神堀 忍

五月二十五日、伊勢上野方面に芭蕉研究を行った。飯田正一・吉永登教授、林和比古

講師の指導の下に、参加者約四十名。

六月十五日、関西大学国文学会総会・研究発表会を天六学舎において開催。

伝達言語学の否定

坂口 兵司

源九郎狐

中野 眞作

近世文学に現れた夢について

西岡 宸

六月二十二日、第二部国文学研究部総会、研究発表会を天六学舎において開催。

言語の社会性と国語教育

池畑 明

藤村「夜明け前」の素材について

岸本 治郎

三夕の歌について

前田 欣吾

六月二十七日、本田溪花坊所蔵雑俳書展観

を春原理事の斡旋により、天六学舎において開催。額原退蔵の「雑俳書解説」に洩れ

たものあり。

六月二十九日、桂離宮並びに修学院離宮拝

観、参加者澤瀉久孝教授ほか二十名。

六月三十日、「国文学」第七号(全65頁)を発行。

七月六日、江馬務の風俗研究所を見学。参加者約三十名。

七月十日、関西大学国文学会研究発表会を

図書館研究室において開催。

芭蕉俳句の五行説

大竹 博

「暗い絵」読後

谷澤 永一

十月二十六日・二十七日、国文学科並びに

史学科の共同主催により、飛鳥地方に研究

旅行。萬葉関係は澤瀉久孝教授、遺蹟・社

寺関係は吉永登教授指導の下に、参加者約

三十名。

十月三十日、「国文学」第八号(全65頁)を発行。

十一月十日、関西大学国文学会講演会を大

学院講堂において開催。

日本文学の学び方 近藤 忠義

十二月一日、関西大学国文学会講演会を第

十三教室において開催。

上代の和歌について 秋本 吉郎

十二月十日、関西大学国文学会研究発表会

を第十三教室において開催。

貞徳の心付について 畑 耕栄

古代信仰と萬葉集 橋本 良圭

昭和二十八年（一九五三年）

一月二十日、「国文学」第九号（全65頁）

を發行。

二月十九日、映画俳優・志村喬（関西大学

予科に入学、大正14年専門部文学科に転科

3学年の時中退）関西大学推薦校友となる。

四月一日、大学院博士課程が設置された。

昭和二十八年年度講義題目は次のとおり。

博士課程

上古及び中古文学(一) 澤瀉 久孝

同 (二) 島田 退蔵

近古及び近世文学(一) 飯田 正一

同 (二) 金子又兵衛

国文学史特殊研究(一) 小島 吉雄

同 (二) 山脇 毅

国語学特殊研究 池上 禎造

支那文学特殊研究 高橋 盛孝

修士課程 修士課程 高橋 盛孝

人麿研究(講義) 澤瀉 久孝

萬葉集卷七(演習) 澤瀉 久孝

明治短歌史(講義) 小島 吉雄

奥の細道(演習) 飯田 正一

風俗文選(演習) 金子又兵衛

学 部 第一部

国文学史 島田 退蔵

国文学作品研究 澤瀉 久孝

上古文学(萬葉集) 澤瀉 久孝

中古文学(源氏物語) 吉永 登

近古文学(新古今集) 小島 吉雄

近世文学(好色一代男) 飯田 正一

近代文学(近代詩) 榊原 美文

国文学演習(一)(モールトン文学論) 金子又兵衛

国文学演習(二)(記紀歌謡) 吉永 登

国語学概論 林 和比古

国語講読(枕草子) 島田 退蔵

国語教育法 西山 隆二

第二部

国文学史 島田 退蔵

国文学作品研究 澤瀉 久孝

上古文学(萬葉集) 澤瀉 久孝

中古文学(源氏物語) 山脇 毅

近古文学(新古今集) 小島 吉雄

近世文学(近松) 吉永 幸雄

近代文学(近代詩) 榊原 美文

国文学演習(一)(モールトン文学論) 金子又兵衛

同 (二)(世間胸算用) 飯田 正一

国語学概論 林 和比古

国語講読(枕草子) 島田 退蔵

国語教育法 西山 隆二

四月一日、島田退蔵が関西大学文学部教授に就任。

四月十日、「国文学」第十号（全61頁）を發行。

五月十九日、関西大学国文学会研究発表会を図書館研究室において開催。

石橋忍月 谷澤 永一

萬葉の遊戯二つ 神姫 忍

五月二十一日、吉永登教授の解説により萬葉歌枕（大和地方）の幻燈を映写。

五月中旬より、左のとおり輪読会を開催。

上古 萬葉集

中古 榮華物語

近世 雨月物語

近代 テイボーテ小説の美学

六月十四日、桂離宮拝観、参加者飯田正一・

吉永登教授ほか二十名。

八月一日、「国文学」第十一号（全65頁）

を發行。

十月二十三日、西山隆二講師（国語教育法

担当）死去。

十一月一日、飯田正一教授、大学院文学研究科幹事になる（昭和三年二月三日まで）。

十二月一日、関西大学国文学会講演会を大学院講堂において開催。

人麿の献呈挽歌

萬葉集の特質

十二月十九日、関西大学国文学会研究発表会を図書館会議室において開催。

斎王考

浦島伝説と高橋虫麻呂

所謂「好色」の語について

二葉亭の年譜について

小林多喜二論

昭和二十九年（一九五四年）

昭和二十九年年度講義題目は次のとおりである。

博士課程

萬葉集卷十四研究（講義）

連歌論研究（講義）

種彦研究（講義）

修士課程

憶良研究（講義）

萬葉集卷十一（演習）

近代短歌（講義）

日本靈異記（講義）

三冊子（演習）

風俗文選（演習）

学 部

第一部

国文学史

国文学作品研究

上古文学（萬葉集）

中古文学（源氏物語）

近古文学（新古今集）

近世文学（好色一代男）

近代文学（近代詩）

国文学演習（一）（モートルン文学論）

金子又兵衛

澤瀉 久孝

澤瀉 久孝

小島 吉雄

吉永 登

飯田 正一

金子又兵衛

島田 退蔵

澤瀉 久孝

吉永 登

小島 吉雄

飯田 正一

榊原 美文

金子又兵衛

島田 退蔵

同

同

同

同

同

同 (三) (記紀歌謠) 吉永 登

を發行。

国語学概論 林 和比古

四月十三日より、左の通り輪説会を開催。

国語科教育法 飯田 正一

(月) 好色五人女 飯田正一教授指導

国語講読 島田 退蔵

(火) 成尋阿闍梨母集

萬葉集卷一の「奈加弭」について 吉永 登

近代日本短篇小説の理論上の問題 常俊 正勝

坪内逍遙「小説神髓」 谷澤 永一

第二部

国文学史 島田 退蔵

(木) 萬葉集卷五 吉永 登教授指導

国文学作品研究 澤瀉 久孝

五月十九日、ケンブリッジ大学講師ドナルド・キーン博士を迎えて懇談会を開催。翌

上古文学 (萬葉集) 山脇 毅

日、同博士の希望により、文楽座において

中古文学 (源氏物語) 小島 吉雄

「仮名手本忠臣蔵」を鑑賞、飯田正一・吉

近古文学 (新古今集) 吉永 孝雄

永登教授、板東修氏同行。

近世文学 (近松) 榊原 美文

五月二十日、関西大学国文学会講演会を大

近代文学 (近代詩) 金子又兵衛

学院講堂において開催。

国文学演習 (一) (モールトン文学論) 比叡文学について ドナルド・キーン

六月五日、八瀬・大原方面見学旅行。参加

同 (二) (萬葉集) 澤瀉 久孝

者、澤瀉久孝教授ほか三十名。

同 (三) (日本水代蔵) 飯田 正一

七月四日、関西大学国文学会総会・講演・

国語学概論 林 和比古

研究発表会を天六学舎第四十二教室におい

国語科教育法 金子又兵衛

て開催。

国語講読 秋本 吉郎

講演「思ひ出」 島田 退蔵

四月十日、「国文学」第十二号 (全53頁)

萬葉の世界 澤瀉 久孝

山柿の論 吉井 巖

大伴家持 境田 四郎

天津の皇子と二人の女性 吉永 登

徳良の歌会 清水 克彦

天平歌壇の人々 小島 憲之

第一日 (八月一日) 第二日 (八月二日) 第三日 (八月三日)

十一月三日・四日、澤瀉久孝教授指導の下に、吉野宮瀧方面に萬葉旅行。金子又兵衛・島田退蔵・吉永登教授およびに学生約三十名参加。

昭和三十年（一九五五年）

二月二十日、「国文学」第十三号（全43頁）を發行。

三月、北條秀司がNNK放送文化賞を受賞。昭和三十年度講義題目は次のとおりである。

博士課程

源氏物語浮舟卷（演習）

島田 退蔵

紅梅千句（演習）

飯田 正一

国文学研究方法論（講義）

小島 吉雄

修士課程

憶良研究（講義）

澤瀉 久孝

萬葉集卷十一（演習）

澤瀉 久孝

三冊子（演習）

飯田 正一

風俗文選（演習）

金子又兵衛

琴歌譜（演習）

吉永 登

連想文学の系譜（講義）

小島 吉雄

無名草子（講義）

島田 退蔵

第二部

学 部

第一部

国文学史

島田 退蔵

国文学史 島田 退蔵

国文学作品研究

島田 退蔵

国文学作品研究

上古文学（萬葉集・人麻呂）

澤瀉 久孝

上古文学（萬葉集、人麻呂）

澤瀉 久孝

中古文学（源氏物語）

澤瀉 久孝

中古文学（源氏物語）

山脇 毅

近古文学（新古今集）

小島 吉雄

近古文学（新古今集）

小島 吉雄

近世文学（西鶴諸国咄）

飯田 正一

近世文学（近松）

吉永 孝雄

近代文学（自然主義以後）

飯田 正一

近代文学（自然主義以後） 榎原 美文

国文学演習（一）（モートルトン「文学の近代的研究」）

榎原 美文

国文学演習（一）（モートルトン「文学の近代的研究」） 金子又兵衛

同

榎原 美文

同（二）（萬葉集） 澤瀉 久孝

国文学演習（二）（枕草子）

島田 退蔵

同（三）（好色一代女） 飯田 正一

同

金子又兵衛

国語学概論 飯倉 篤義

同（三）（萬葉以後の歌）

島田 退蔵

国語学演習（枕草子） 吉永 登

国語学概論

吉永 登

国語科教育法 土部 弘

国語学演習（萬葉集卷十）

澤瀉 久孝

四月二十五日より、中古部会において、毎週輪読会を開催。テキスト栄華物語・大和物語。指導島田退蔵・吉永登教授。

国語科教育法

土部 弘

五月十四日・十六日、日本近世文学会第六

回春季大会を関西大学大学院講堂で開催。

五月十四日

頼杏坪訳「演盆裁」について

水田 紀久

山々亭有人について

興津 要

「色道大鏡」について

吉田 幸一

討論会「近松研究の課題」(議長・小島

吉雄、報告者・吉永孝雄・森修)

稀観本展観

五月十五日

並木五瓶について

山本とも子

並木宗輔伝の新資料

角田 一郎

物産家平賀源内の戯作執筆の動機をめぐ

て

本田 康雄

雨月物語「貧福論」の再検討

鶴月 洋

甲子吟行の一写本について

彌吉 菅一

俳諧次韻の位置

島居 清

近世歌謡の源流についてー筑紫箏を中心

としてー

平野 健次

勝扇子について

盛田 嘉徳

仮名草子の一考察

野間 光辰

協議会並に懇親会(大学ホール)

五月十六日

大阪文学散歩

五月二十五日、淡路岩屋方面に見学旅行。

参加者金子又兵衛・吉永登教授ほか学生約

二十名。

六月二十日、「国文学」第十四号(全65頁)

を發行。

十月一日、金子又兵衛教授が文学部部長代

理に任じられる。

十一月十日より毎週英書輪読会を開催。テ

キストH. Road Art and Industry 担当

谷澤永一助手。

十一月十七日、谷澤永一が関西大学文学部

助手に就任。

十一月二十二日、関西大学国文学会研究発

表会を千里山学舎第一〇三教室において開

催。

梁塵秘抄四句神歌について 荻原 健

樋口一葉の女性観

前川 典生

采女考

植田 篤子

十二月一日、「現代歌人による萬葉集研究

文献」に関する展観並びに講演会を千里山

学舎第一〇三教室において開催。飯田正一

教授の司会により谷澤永一助手から展観本

百数十種の解説の後、左の講演を行った。

現代歌人の萬葉研究について

澤瀉 久孝

萬葉集私注について

吉永 登

十二月十日、近世部会において毎週輪読会

を開催。テキスト・雨月物語。指導飯田正

一教授。

十二月二十日、「国文学」第十五号(全61

頁)を發行。

昭和三十一年(一九五六年)

二月、北條秀司が第八回毎日演劇賞を受賞。

四月一日、東郷富規子助手に就任。

昭和三十一年度講義題目は次のとおりであ

る。

博士課程

去來抄(演習)

飯田 正一

修士課程

萬葉集(講義)

澤瀉 久孝

連想文学の系譜(講義)

小島 吉雄

無名草子(講義)

島田 退藏

本朝二十不孝(演習)

飯田 正一

萬葉集卷十一(演習)

澤瀉 久孝

男色大鑑(演習)

金子又兵衛

懷風藻(演習)

吉永 登

学部

第一部

国文学史(一)(中世まで)

吉永 登

同 (二)(近世より)

飯田 正一

国文学作品研究

上古文学(萬葉集)

澤瀉 久孝

中古文学(源氏物語、橋姫)

島田 退藏

近古文学(新古今集)

小島 吉雄

近世文学(日本永代蔵)

飯田 正一

近代文学(明治大正期小説)

榎原 美文

国文学演習(一)(文学の近代的研究)

榎原 美文

同 (二)(枕草子)

島田 退藏

同 (三)(萬葉集伝誦歌)

金子又兵衛

国語学概論

渡辺 実

国語学演習(萬葉集、卷十)

澤瀉 久孝

国語科教育法

土部 弘

専門国語

金子又兵衛

国文学史(一)(中世まで)

島田 退藏

同 (二)(近世より)

飯田 正一

国文学作品研究

上古文学(萬葉集初期作家作品の概説)

澤瀉 久孝

中古文学(源氏物語)

山脇 毅

近古文学(新古今集)

小島 吉雄

近世文学(近松)

吉永 孝雄

近代文学

榎原 美文

国文学演習(一)(文学の近代的研究)

金子又兵衛

同 (二)(萬葉集)

澤瀉 久孝

同 (三)(萬の文反古)

飯田 正一

国語学概論

渡辺 実

国語学演習

吉永 登

国語科教育法

土部 弘

専門国語

秋本 吉郎

昭和三十一年度輪読会は左記のとおりである。

火曜 御物本更級日記

火曜 島田退藏・吉永登教授指導

火曜 雨月物語 飯田正一教授指導

火曜 大鏡 島田退藏・吉永登教授指導

水曜 萬葉集 吉永登教授指導

水曜 漱石作品 谷澤水一助手

土曜 奥の細道 金子又兵衛教授指導

五月十日、唐招提寺薬師寺西大寺方面へ研

究旅行。参加者約四十名。

五月十七日、谷澤水一助手指導による近代文学研究発表討論会で、春日敏晴が「志賀直哉『邦子』」を発表。

五月二十四日、最新純子「泉鏡花『高野聖』」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

五月三十一日、橋本淳介「高山樗牛『滝口入道』」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

六月七日、京谷利之「石川達三『幸福の限界』」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

六月十九日、関西大学国文学会講演会を大学院読書室において開催。講師・羽倉敬尚「荷田春満等の萬葉集研究」。

六月二十日、「国文学」第十六号(全53頁)を發行。

六月二十三日、稲垣安伸「テーヌ著瀧沼詠『文学史の方法』」(谷澤水一助手指導、近

代文学研究発表討論会)

七月三日、春日敏晴「石川啄木『我等の一団と彼』」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

七月十日、松井武治「二葉亭四迷『浮雲』」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

七月十七日、小林紀美子「樋口一葉『十三夜』」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

七月二十四日、最新純子「泉鏡花『歌行燈』」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

七月三十日〜八月一日、第二回夏季萬葉講座が天六学舎で開催。

七月三十日

まくらことば

萬葉卷三どころどころ

七月三十一日

人麻呂と史実

萬葉卷三どころどころ

八月一日

老人のなげき

萬葉卷三どころどころ

九月六日、田中克己「菊池寛『父帰る』」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

論会)

九月十三日、川端修「倉田百三『出家とその弟子』」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

九月十八日、関西大学国文学会研究発表会を第一学舎一三教室において開催。

憶良の一考察

西鶴武家物にあらわれた法規と慣習

小谷 省三

十月三日、伊賀上野および石山寺方面へ研究旅行。参加者約四十名。

十月十一日、岡田悟郎「八住利雄シナリオ『夫婦善哉』」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

池上 禎造

澤瀉 久孝

吉水 登

澤瀉 久孝

土橋 寛

澤瀉 久孝

十月二十五日、福井久「横光利一」[時間]

(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

十一月十三日、関西大学国文学会研究発表

会を第一学舎一三教室において開催。

春雨物語宮木が塚におこる心境

田中 克己

「好色五人女」について

十一月二十四日、関西大学国文学会講演会

を第一学舎二〇七教室において開催。

雨月物語論

十一月二十六日、関西大学国文学会研究発表

会を第一学舎一三教室において開催。

近松世話物に於ける人物の類型について

松井 武治

啄木のローマ字日記について

春日 敏晴

十二月十八日、関西大学国文学会研究発表

会を大学院読書室において開催。

現代敬語表現の様相

土部 弘

昭和三十三年(一九五七年)

三月三十一日、国語学概論担当の阪倉篤義、

渡辺実講師が都合により辞任。

四月一日、吉永登教授、年金運営委員会委員を委嘱される(昭和36年3月31日まで)。

四月一日、木下正俊に非常勤講師を嘱任。

昭和三十三年年度講義題目は次のとおり。

博士課程

近世前朝小説(講義) 飯田 正一

W.G.Aston Japanese Literature

(講義) 金子又兵衛

源氏物語夕霧(講義) 烏田 退蔵

修士課程

萬葉集第三期の歌人(講義) 澤瀉 久孝

明治時代における歌論史(講義) 小島 吉雄

和泉式部日記(講義) 烏田 退蔵

武家義理物語(演習) 飯田 正一

男色大鑑巻の三(演習) 金子又兵衛

記紀歌謡(演習) 吉永 登

学部

第一部

国文学史(一)(中世まで) 吉永 登

同 (二)(近世より) 飯田 正一

国文学作品研究

上古文学(萬葉集入唐以後) 澤瀉 久孝

中古文学(落窪物語) 烏田 退蔵

近古文学(新古今集) 小島 吉雄

近世文学(世間胸算用) 飯田 正一

近代文学 榊原 美文

国文学演習(一)(R.G.Moulton The

Modern Study of Literature

Chapter 一) 金子又兵衛

同 (二)(枕草子) 烏田 退蔵

同 (三)(萬葉集) 吉永 登

国語学概論 木下 正俊

国語学演習(萬葉集卷二) 澤瀉 久孝

国語教育法 土部 弘

専門国語(好色一代男) 金子又兵衛

第二部

昭和三十二年度輪読会は次のとおり。

六月一日、抄読会で、吉永登教授「挽歌の性格」を発表。

六月四日、正田武弘「岸田国士」紙風船」

〔谷澤永一助手指導、近代文学研究発表討

論会〕

六月十一日、住吉久美「森 鷗外」高瀬舟」

〔谷澤永一助手指導、近代文学研究発表討

論会〕

六月十八日、福田美子「小林多喜二」蟹工

船」〔谷澤永一助手指導、近代文学研究發

表討論会〕

六月二十五日、瀬尾憲審「太宰治」思ひ出」

〔谷澤永一助手指導、近代文学研究発表討

論会〕

六月二十五日、山脇毅講師が文学博士の学

位を受けられた記念祝賀会が大学院会議室

で開かれた。秋本吉郎・飯田正一・池田信

之輔・大西昭男・澤瀉久孝・金子又兵衛・

釜田喜三郎・神堀忍・北川甚太郎・木村昌

三・小島吉雄・榊原美文・島田退蔵・高橋

国文学史(一) (中世まで)

島田 退蔵

同 (二) (近世より)

飯田 正一

国文学作品研究

火曜12時半 誹風柳多留初篇

飯田正一教授指導

上古文学 (萬葉集人麿以後)

飯田正一・島田退蔵・吉永登教授指導

澤瀉 久孝

火曜4時 (前期) 大鏡左大臣時平

中古文学 (源氏物語葵)

山脇 毅

島田退蔵・吉永登教授指導

近古文学 (新古今集)

小島 吉雄

月曜2時半 Herbert Read 「The Mea

近世文学 (丹波与作・忠臣蔵)

吉永 孝雄

ning of Art 谷澤永一助手指導

四月十五日、宇治方面へ研究旅行。興聖寺・

榊原 美文

平等院・泉神社・万福寺歴訪。飯田正一・

国文学演習Ⅰ (R. G. Moulton The

吉永登教授指導のもとに参加者十九名。

Modern Study of Literature

四月二十日、「国文学」第十七号 (全59頁)

Chapter 1)

金子又兵衛

を發行。

同 (一) (萬葉集卷三)

澤瀉 久孝

五月十四日、中川正昭「横光利一」春は馬

同 (三) (日本永代蔵)

飯田 正一

車に乗って」〔谷澤永一助手指導、近代文

国語学概論

木下 正俊

学研究発表討論会)

国文学演習 (萬葉集)

吉永 登

五月三十一日、正田武弘「詩劇の可能性」

国語科教育法

土部 弘

〔谷澤永一助手指導、近代文学研究発表討

専門国語 (伊勢物語)

秋本 吉郎

論会)

盛孝・谷澤永一・壺井義正・中野眞作・土部弘・吉永孝雄・吉永登が出席。

七月十八日（八月二日、第四回関西大学・

島根大学共同隠岐文化総合調査団文学国語学班に、吉永登教授・土部弘講師・神堀忍・関大一高教諭・小野頼男四年次生が参加。

七月二十日、「国文学」第十八号（全64頁）を發行。

七月二十二日（二十四日、第三回夏季萬葉講座が関西大学天六学舎において開催された。

七月二十二日

萬葉ことば

阪倉 篤義

萬葉歌異見

澤瀉 久孝

七月二十三日

萬葉のあや

井出 至

萬葉集の叙景歌

大浜巖比呂

七月二十四日

自敬表現の歌

木下 正俊

萬葉歌異見

澤瀉 久孝

九月十日、重松実「小林多喜二『不在地主』」（谷澤永一助手指導、近代文学研究発表討論会）

論会）

九月十七日、小野頼男「島木健作『生活の探究』」（谷澤永一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十月一日、抄読会で、谷澤永一が「久野収・鶴見俊輔『現代日本の思想』」を發表。広瀬正男「志賀直也『和解』」（谷澤永一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十月五日、浜本順一「宮本百合子『貧しき人々の群』」（谷澤永一助手指導、近代文学研究発表討論会）

研究発表討論会）

十月八日、抄読会で、土部弘「大野晋『日本語の起源』」を發表。

本語の起源」を發表。

十月十二日（十四日、俳文学会全国大会が大学院講堂で開催された。

第一日 十二日

芭蕉と透谷

山下 一海

蓬葉は語らず！助詞「に」と切字

富山 奏
「春風馬堤曲」と大阪の生活
正木 威男

不易流行論の思想的背景
赤羽 学

連歌作者としての細川幽齋
小高 敏郎
第二日 十三日

千句連歌の興行とその変遷
島津 忠夫
明暦二年の俳壇について
榎坂 浩尚
心敬の付号
田中 裕

季節について
波止 彰夫
菟玖波集作者考―性遣・寂意その他―
金子又兵衛

討論会 俳諧の伝統と現代俳句（司会・栗山理一 報告・西垣脩・弥吉管一）

懇親会 参加者七十五名。

第三日 十四日

大阪俳文学遺跡踏見学 案内・飯田正一・小谷省三 参加者約百十名。

十月十五日、淡路島方面研究旅行、飯田正

一教授指導、参加者約十七名。

十月二十日、「国文学」第十九号（全69頁）を發行。

十月二十二日、池崎敬治「芹澤光治良「巴里に死す」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十月二十二日、抄読会で、谷澤水一「丸山真男「現代政治の思想と行動」」を發表。

十月二十六日、辻本長嘉「島崎藤村「風」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十月二十九日、抄読会で、土部弘「文法論と文法教育（日本文法講座2）」を發表。

十月二十九日、福田美子「三島由紀夫「美德のよろめき」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十一月一日、金子又兵衛教授、大学院文学研究科幹事となる（昭和34年11月18日まで）。

十一月二日、福田朝美「森鷗外「高瀬舟」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十一月五日、抄読会で、橋間石「現代俳句の問題」を發表。

十一月五日、足尾喬司「宮沢賢治「オッペルと象」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十一月九日、定運和子「太宰治「斜陽」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十一月十二日、抄読会で、谷澤水一「梅棹忠夫「文明の生態史観序説」」を發表。

十一月十五日、関西大学国文学会講演会を第一学会第一会議室で開催。

十一月十六日、西長男「堀辰雄「菜穂子」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十一月三十日、加藤博「川端康成「子羽鶴」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十二月三日、東郷富規子助手退任。

十二月三日、松田和夫「ワイルド「幸福な王子」邦訳」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十二月七日、竹末静枝「倉田百三「出家とその弟子」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十二月十日、住吉久美「深沢七郎「橘山節考」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

十二月十七日、広瀬正男「三島由紀夫「仮面の告白」」（谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会）

昭和三十三年（一九五八年）一月二十日、「国文学」第二十号（全64頁）を發行。

三月三十一日、澤瀉久孝教授退任。引続き非常勤講師に嘱任された（昭和42年3月31日まで）。

四月一日、風巻景次郎、関西大学文学部教授に就任。

飯田正一教授・平野健次助手指導

火曜4時 西鶴諸国ばなし

飯田正一教授・平野健次助手指導

水曜11時 東海道中膝栗毛

飯田正一教授・平野健次助手指導

木曜1時 The Meaning of Art

(H. Read) 谷澤水一助手指導

四月十日、「国文学」第二十一号(全68頁)

を發行。

五月九日、今中三郎「田山花袋『蒲団』」

(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討

論会)

五月十一日、関西大学国文学会総会・研究

発表会を関西大学大学院第七教室で開催。

自然主義文学批評の屈折 谷澤 水一

来山の人間について 小谷 省三

現代文におけるスタイル―待遇法のしく

みに関する一考察― 佐伯 哲夫

民間語源について 木下 正俊

五月十七日、日本文学協会大阪・京都・神

戸各支部共催による風巻景次郎教授歓迎懇

談会を関西大学大学院会議室において開催

された。

五月三十日、田中秀則「太宰治『東京八景』」

(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討

論会)

六月六日、久保田玲子「岩野泡鳴『放浪』」

(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討

論会)

六月十四日、関西大学専門部国漢科昭和十

九年卒業生によって組織されている十九学

会が近鉄アベノ百貨店六階宴会場において

懇親会を開き、吉永登教授、山脇毅講師が

出席。

七月二十日、「国文学」第二十二号(全68

頁)を發行。

十月二十日、「国文学」第二十三号(全78

頁)を發行。

十月二十三日・二十四日、伊勢志摩方面に

研究旅行、飯田正一・吉永登教授・木下正

俊専任講師、平野健次助手指導、参加者約

三十名。

十一月一日、澤瀉久孝講師萬葉集注釈出版

祝賀会が天竜寺(京都)で開催され、飯田・

金子・島田・吉永・小島教授・木下専任講

師・谷澤・平野助手・神堀・西岡・吉原一

高教諭・中野一中教諭・三井大学院学生・

神堀貞子・中田房雄卒業生等出席。

十一月六日、多賀野洋子「樋口一葉『にこ

りえ』(谷澤水一助手指導、近代文学研究

発表討論会)

十一月二十日、石田佳子「岡本かの子『河

明り』(谷澤水一助手指導、近代文学研究

発表討論会)

十一月二十四日、関西大学国文学会講演会

を天六学舎で開催。

近松と現代

十一月二十七日、浜本順一「伊藤左千夫

『隣の家』」(谷澤水一助手指導、近代文学

研究発表討論会)

近藤 忠義

十一月二十七日、関西大学国文学会講演会を郵政会館で開催。

懐硯と万文反古 飯田 正一

十二月五日、池崎欽治「島崎藤村「春」」

(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

十二月六日、関西大学国文学会講演会を大学院講堂で開催。

平家物語について 水積 安明

十二月十二日、石田彰「室生犀星「あにいもうと」」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

十二月十九日、石田佳子「岡本かの子「老妓抄」」(谷澤水一助手指導、近代文学研究発表討論会)

昭和三十四年(一九五九年)

一月二十日、「国文学」第二十四号(全八頁)を發行。

四月一日、谷澤水一、関西大学文学部専任講師に就任。

昭和三十四年度輪読会は、飯田正一教授・

平野健次助手指導により「平家物語」(毎週火曜)を、平野健次助手指導により「西鶴置土産」(隔週水曜)を行った。

四月二十日、「国文学」第二十五号(全67頁)を發行。

五月一日、吉永登教授、教養部長・大学協議会協議員を委嘱される(ともに昭和36年3月31日まで)。

五月三十日、関西大学国文学会総会・研究発表会を大学院階段教室において開催。

土佐日記の解釈 井村 哲夫

文字論の方法論的異議 坂口 兵司

来山の評論について 小谷 省三

新古今集の巻頭歌 風巻景次郎

六月一日、金子又兵衛教授、関西大学協議会協議員を委嘱される(昭和36年5月31日まで)。

六月七日、義仲寺・石山寺方面へ研究旅行。飯田正一教授・榎原美文講師・平野健次助

手指導。

六月十二日(十五日)、日本近世文学会春季大会が開催された。

第一日 六月十二日 毎日新聞社講堂 公開講演会

挨拶 守隨 憲治

秋成の人と思 中村 幸彦

雨月物語私見 後藤 丹治

第二日 千里山学舎 「懐硯」にみえる非西鶴的要素 神堀 貞子

近松世話浄瑠璃の上演年月日

道行の文体について 馬場 憲治

建部綾足の交友 角田 一郎

初期暖台について 前田 利治

宝蔵坊信海について 山下 一海

「檣の袖」をめぐる 小高 敏郎

飯名垣派・柳亭派・為水派 美山 靖

文献展観(秋成その他) 興津 要

第三日 千里山学舎

元禄末年の浮世草子 長谷川 強

「傾城燈籠若」と「傾城山榭大夫」と

石川潤二郎

上方読本展開の一側面 横山 邦治

洒落本と浮世物真似・浮世声色

本田 康雄

洒落本作者献笑閣主人について

野間 光辰

遊女語「んす」の発生について

真下 三郎

狂蕩の文学

堺 光一

秋成終焉の地

羽倉 敬尚

討論会 (NHK録音放送)

上田秋成の人と作品

司会 大谷 篤蔵

懇親会

第四日 六月十五日

文学散歩 加島・神崎・久々知・伊丹・

昆陽・荻野・道祖本・江口・淀川堤

七月二十日、「国文学」第二十六号 (全69頁) を発行。

十月十七日・十八日、和歌文学会第五回大会が開催された。

第一日 十月十七日

歌枕めぐり (文学散歩・梅田・長柄橋・

水無瀬・山崎・男山・渚・交野・梅田)

公開講演会 毎日新聞社講堂

古典和歌の一問題 風巻景次郎

萬葉集の難解歌 高崎 正秀

将来の放送文化と和歌の律格との関係

夜隠 中西 進

第二日 十月十六日 千里山学舎

萬葉における古歌の誦詠 内田 暁郎

物名歌をめぐる 乗岡 憲正

後撰集における歌物語の契機

新勅撰集の歌風をめぐる 藤平 春男

西行上人の歌―細みについて―

洪谷 孝

昭和三十五年 (一九六〇年)

一月四日、風巻景次郎教授が心筋梗塞により死去。

山崎 雪子

明治初期における国学者の和歌

甲斐知恵子

近代短歌における行分けについて

高橋 良雄

四条宮下野と周辺

橋本不美男

萬葉代匠記初稿本のことども

吉永 登

討論会「和歌文学における伝統と創造」

(講師 小野十三郎・窪田章一郎・実方

清・峯岸義秋、司会・山崎敏夫)

総会 懇親会

十月二十日、「国文学」第二十七号、山脇

博士古稀記念特集その一 (全74頁) を発

行。十一月十五日・十六日、小豆島方面研究旅

行、飯田正一・吉永登教授指導。

昭和三十五年 (一九六〇年)

一月二十日、「国文学」第二十八号、山脇博士古稀記念特集その二（全81頁）を發行。

二月十四日、風巻景次郎教授慰靈祭が千里山学会二〇三教室で開かれた。開式に先立って、文学博士の学位記が靈前に供えられた。三月十五日、吉永登教授、主論文「萬葉集の研究」、副論文「鎌倉時代における萬葉集の研究」「萬葉―その異伝発生をめぐって」により、関西大学より文学博士の学位が授けられた。

三月二十日、関西大学国文学会「島田教授古稀記念国文学論集」を刊行。同日、古稀祝賀会千里山学会大学ホールにおいて開かれた。

三月三十一日、島田退蔵教授定年退職。四月一日より非常勤講師となる（昭和39年3月31日まで）。

四月一日、平野健次助手が専任講師に昇任。四月一日、神堀忍非常勤講師に嘱任。

昭和三十五年度講義題目は次の通りである。

博士課程

萬葉集研究

源氏物語研究

未來抄研究

文学形態学研究

萬葉集演習

竹取物語研究

修士課程

堤中納言物語研究

明治短歌研究

萬葉集演習

学 部

国文学史一（中世まで）

国文学史二（近世まで）

国文学作品研究

上古文学（萬葉集）

〃（〃）

中古文学（うつば物語）

〃（源氏物語）

近古文学（新古今集）

近世文学（雨月物語）

〃（淨瑠璃）

近代文学（近代日本の小説）

国語学概論

国文学演習一（The Modern Study of Literature）

国文学演習二（大正十年代の文学觀念）

国文学演習三（芭蕉の俳文）

国語学演習（竹取物語）

〃（〃）

専門国語（芭蕉俳諧七部集）

〃

〃

〃

〃

〃

（二部）

島田 退蔵
（二部）

山脇 毅
（二部）

小島 吉雄

飯田 正一
（一部）

吉永 孝雄
（二部）

榊原 美文

木下 正俊

金子又兵衛

谷澤 永一

飯田 正一

吉永 登
（一部）

平野 健次
（二部）

金子又兵衛

〃

〃

〃

〃

〃

(二部)

〃 (伊勢物語)

秋本 吉郎 (二部)

国語科教育法

土部 弘 (二部)

〃 神堀 忍 (二部)

六月一日、「関西大学国文学会会報」(全8ページ)を發行。

六月十八日、関西大学国文学会総会・研究発表会を千里山学舎大学ホールで開催。

萬葉集字不足音句

新口 善久

宇治十帖の構成

西木 忠一

挽歌の成立

神堀 忍

さびの構造

飯田 正一

元明天皇の歌一首

吉永 登

十月二十日、「国文学」第二十九号、風巻景次郎博士追悼号(全166頁)を發行。

十一月五日〜八日、萬葉学会公開講演会・研究発表会が開催された。

十一月五日 公開講演会第十四回

於・関西大学大学院階段教室

憶良の虚構歌

吉永 登

萬葉の訓みかた

澤瀉 久幸

子規及びその後継者たちの萬葉観

土屋 文明

懇親会

十一月六日 研究発表会第十一回

於・関西大学大学院

「花散らふ秋」と「み雪降る秋」とー枕詞と呪農ー

桜井 満

萬葉集歌の伝承ー継色紙集の場合ー

金井 清一

「萬葉考」に於ける本文批評について

河野 頼人

類聚古集の部類

神堀 忍

人麻呂殯宮歌考

阿蘇 瑞枝

昭和三十六年(一九六一年)

三月二十日、「国文学」第三十号(全62頁)を發行。

四月一日、岡見正雄、関西大学文学部教授

に就任。

四月一日、木下正俊、関西大学文学部助教に就任。

四月一日、小島吉雄、非常勤講師に就任。

四月一日、飯田正一教授、教養部長、関西大学協議会協議員を委嘱される(昭和38年3月31日まで)。

六月十日、関西大学国文学会研究発表会・公開講演会を千里山学舎大学ホールで開催。

研究発表

萬葉集二四六一の解釈

衛藤 兵衛

古代文学における死のイメージについて

風巻 融

うつほ物語の巻序と年立

多賀野洋子

公開講演会

大阪蕉門

飯田 正一

「なんびん」について

金子又兵衛

十月一日、飯田正一教授、大学院委員会委員を委嘱される(昭和42年9月30日まで)。

十一月二十日、「国文学」第三十一号(全

68頁)を發行。

昭和三十七年(一九六二年)

三月二十日、「国文学」第三十二号(全69

頁)を發行。

三月三十日、岡見正雄教授、「中世小説研究序説」により文学博士の学位を受ける。

四月一日、谷澤永一、関西大学文学部助教

授に就任。同日、関西大学創立八十周年記念事業学生歌選者を委嘱される。

昭和三十七年度大学院講義題目は次のとおりである。

博士課程
萬葉集卷十二・十三演習 澤瀉 久孝
上代歌謡研究 吉永 登
中世歌論研究 岡見 正雄
俳諧研究 飯田 正一
堤中納言物語研究 島田 退蔵
修士課程
萬葉集研究 澤瀉 久孝
萬葉集卷一演習 吉永 登

新古今集研究

連歌論演習

役者絵づくし特殊研究

仮名草紙演習

紫式日記研究

六月二十日、「国文学」第三十三号(全92

頁)を發行。

十月一日、吉永登教授、文学部部長に選

出され、大学協議会協議員を委嘱される。

評議員に就任(いずれも昭和39年9月31日

まで)。

昭和三十八年(一九六三年)

三月、吉永登教授、大学基準協会から教科
専門委員会委員を委嘱される。

四月一日、平野健次、関西大学文学部助教

授に昇任。

四月一日、昭和三十八年度講義題目は次の

とおりである。

博士課程
萬葉集卷十四・十五演習 澤瀉 久孝

小島 吉雄

岡見 正雄

金子又兵衛

飯田 正一

島田 退蔵

初期萬葉の研究

室町散文研究

仮名草子演習

修士課程

萬葉集卷一演習

萬葉集研究

中世小説演習

新古今和歌集研究

未來抄演習

日本人の笑いの研究

堤中納言物語研究

学 部

国文学史一(一部)

〃 (二部)

国文学史二(一部)

〃 (二部)

国文学作品研究

上古文学(一部)(萬葉集)

吉永 登

岡見 正雄

飯田 正一

吉永 登

澤瀉 久孝

岡見 正雄

小島 吉雄

飯田 正一

金子又兵衛

島田 退蔵

木下 正俊

飯田 正一

金子又兵衛

飯田 正一

澤瀉 久孝

澤瀉 久孝

澤瀉 久孝

澤瀉 久孝

中古文学（二部）（源氏物語） 吉永 登

〃 （二部）（ 〃 ） 島田 退蔵

〃 （二部）（世間胸算用） 金子又兵衛
 国文学演習三（二部）（中近世の音楽文芸―
 謡曲―） 平野 健次

十一月十六日 見学
 生駒宝山寺藏金春家旧伝能楽関係文書
 十一月十七日 研究発表
 将門記の成立 加美 宏
 釈教歌研究史上に於ける「類題法文和歌
 集注解」の位置 間中富士子

近古文学（二部）（新古今集）

山脇 毅

〃 （二部）（芭蕉文集） 飯田 正一

小島 吉雄

国語学演習（二部）（伊勢物語・大和物語）

〃 （二部）（軍記物）

岡見 正雄

〃 （二部）（古今和歌集） 吉永 登

新千載和歌集賀部大嘗会和歌をめぐる一
 考察 後藤 重郎
 秀歌と定家歌論 田中 裕

近世文学（二部）（浮世草子と上方説本）

飯田 正一

専門国語（二部）（俳諧七部集） 木下 正俊

徒然草桂宮本系二、三の異本について 高乗 勲

〃 （二部）（近松浄瑠璃）

平野 健次

国語科教育法（二部） 土部 弘

近代文学（二部）（共通）（明治前期の

文芸評論）

谷沢 永一

〃 （二部） 神堀 忍

昭和三十九年（一九六四年）
 一月五日、山脇毅非常勤講師死去。

国語学概論（二部）（共通）

国文学演習（二部）（共通）（幸若舞曲・

太平記）

岡見 正雄

六月二十日、「国文学」第三十四号（全53
 頁）を発行。
 十月一日、飯田正一教授が大学院委員会委
 員になる（昭和42年9月30日まで）。

一月二十日、「国文学」第三十五号（全82
 頁）を発行。

国文学演習二（二部）（芥川龍之介の前期

の小説） 谷沢 永一

十一月十六日・十七日、日本中世文学会秋
 季大会が関西大学で開催された。

六月二十日、「国文学」第三十六号（全68
 頁）を発行。

昭和四十年（一九六五年）

一月二十日、「国文学」第三十七号（全80頁）を發行。

三月、北條秀司が「北條秀司戯曲選集」
（全8巻）により、第十五回芸術選奨文部
大臣賞を受賞。

四月一日、小島吉雄、関西大学文学部教授
に就任。

四月一日、吉永登教授、関西大学東西学術
研究所研究員になる（昭和51年3月31日ま
で）。

六月十日、明珍昇（昭和34年院修士了）の
作詞「関西大学学生歌」が入選（後日、選
定）。

七月二十日、「国文学」第三十八号 特集・
芥川龍之介（全100頁）を發行。

九月一日、飯田正一教授、学生部長・誠之
館長・有鄰館長に就任（昭和41年3月31日
まで）。

九月一日、飯田正一教授、関西大学創立八
十周年記念事業実行委員会委員を委嘱され

る（昭和40年11月26日まで）。

十二月二十日、「国文学」第三十九号（全
160頁）を發行。

昭和四十一年（一九六六年）

二月、北條秀司が「北條秀司戯曲選集」に
より、第十七回読売文学賞を受賞。

四月一日、清水好子・佐伯哲夫、関西大学
文学部非常勤講師となる。

七月一日、山脇先生記念会（関西大学文学
部内 国文学研究室）が「枕草子本文整理
札記」（428頁）を刊行。

十月二十日、「国文学」第四十号 特集・
明治文化研究会事歴（全222頁）を發行。

十月二十日、関西大学国文学会は、田熊渭
津子編著「明治文化研究会事歴」を関西大
学国文学会刊行図書第二として刊行。

昭和四十二年（一九六七年）
三月二十日、「国文学」第四十一号（全110
頁）を發行。

四月一日、神堀忍、関西大学文学部助教授

に就任。

四月一日、清水好子、関西大学文学部専任
講師に就任。

四月一日、上参郷祐康、関西大学文学部助
手に就任。

四月一日、木下正俊、関西大学文学部教授
に昇任。

十一月一日、飯田正一教授、就職主事にな
る（昭和44年10月31日まで）。

十一月一日、吉永登教授、大学院文学研究
科長、大学院委員会委員を委嘱される（昭
和43年10月31日まで）。

十二月二十日、「国文学」第四十二号（全
67頁）を發行。

昭和四十三年（一九六八年）
三月二十日、「国文学」第四十三号（全92
頁）を發行。

四月一日、谷澤水一、関西大学文学部教授
に昇任。

四月一日、清水好子、関西大学文学部助教

授に昇任。

十月一日、吉永登教授、学校法人関西大学評議員ならびに理事に就任（昭和47年9月まで）。

十月一日、清水好子助教授、文学部学生相談主事になる（昭和44年10月31日まで）。

十月一日、谷澤永一教授、関西大学出版委員会委員になる（昭和45年9月30日まで）。

十月十四日、澤瀉久孝元教授死去。

十一月一日、岡見正雄教授、大学院文学研究科長・大学院委員会委員になる（昭和44年10月31日まで）。

昭和四十四年（一九九六年）

三月三十一日、平野健次助教授依願退職。

三月三十一日、上参郷祐康助手依願退職。

六月二十日、五学部闘争委員会、三学部自治会、学生集会で全学共闘会議を組織し、

関西大学会館の封鎖を決議してバリケード

封鎖。

七月五日、文・法・社研究棟封鎖される。

九月十六日、八日より行われた全共闘主催の各学科討論会を、国文科・英文科は拒否。

昭和四十五年（一九七〇年）

四月一日、伊藤正義、関西大学文学部助教に就任。

四月一日、神堀忍、関西大学文学部教授に昇任。

四月一日、浦西和彦、関西大学文学部非常勤講師に嘱任。

八月一日、「国文学」第四十四号（全75頁）を発行。

十月一日、神堀忍教授が文学部学生主任になる（昭和46年4月14日まで）。

昭和四十六年（一九七一年）

一月十三日、飯田正一教授、「大阪俳諧史の研究」により関西大学から文学博士の学位を授与される。

三月二十四日、金子又兵衛教授、「日本中世近世文学伝統の研究」により、関西大学から文学博士の学位を授与される。

三月三十一日、金子又兵衛・飯田正一・小島吉雄教授が定年退職。

四月一日、中村幸彦、関西大学文学部教授に就任。

四月一日、佐伯哲夫、関西大学文学部助教に就任。

四月一日、浦西和彦、関西大学文学部専任講師に就任。

四月一日、清水好子、伊藤正義、関西大学文学部教授に昇任。

四月一日、青木晃・水田紀久、関西大学文学部非常勤講師に嘱任。

五月一日、岡見正雄教授、関西大学東西学術研究所研究員になる（昭和54年4月1日まで）。

六月十三日、南葛城御所地方へ上代文学遺跡めぐり、吉永登教授指導、参加者四十数名。

七月二十日、「国文学」第四十五号（全52頁）を発行。

十一月二十一日、平群谷・斑鳩の里方面へ
上代文学遺跡めぐり、吉永登教授指導、参
加者六十数名。

十一月二十八日、関西大学国文学会講演会
を関西大学第一高等学校集会所において開
催。

景樹と子規 中村 幸彦
遊仙窟について 入矢 義彦

昭和四十七年（一九七二年）

一月二十二日、過激派集団が学舎・教室に
破壊を加えたため、機動隊導入、駐留によ
り修復作業を行ない、入試にそなえるため
二月六日まで学内立ち入り禁止となる。全
学部（一部）学年末試験をレポートに切り
替えることに決定。

三月一日、「国文学」第四十六号（全48頁）
を發行。

三月二十五日、谷澤永一教授、「日本近代
文芸評論史研究」により、関西大学から文
学博士の学位を授与される。

九月一日、「国文学」第四十七号（全60頁）
を發行。

十二月三日、関西大学国文学会講演会を開
催。

飯橋の伝記―中世の人丸― 伊藤 正義
昭和四十八年（一九七三年）

三月三十一日、伊藤正義教授が依願退職。
三月三十一日、木下正俊教授、「萬葉集語

法の研究・萬葉集本文と字音の研究」によ
り、関西大学から文学博士の学位を授与さ
れる。

三月三十一日、神堀忍教授、「日本上代文
学の研究」により、関西大学から文学博士
の学位を授与される。

四月一日、水田紀久、関西大学文学部教授
に就任。

四月一日、谷澤永一教授、関西大学文学部
学部長代理になる（昭和49年9月30日まで）。

四月一日、吉永登教授、関西大学東西学術
研究所所長に就任（昭和50年3月31日まで）。

七月一日、「国文学」第四十八号（全80頁）
を發行。

十月一日、中村幸彦教授、関西大学図書館
長に就任（昭和51年9月30日まで）。

十一月、北條秀司、演劇協会の創始者とし
て演劇文化に貢献したことにより第二十一
回菊地寛賞を受賞。

十二月一日、「国文学」第四十九号（全85
頁）を發行。

十二月一日、金子又兵衛元教授、関西大学
名譽教授の称号を授与される。

昭和四十九年（一九七四年）

三月二十七日、佐伯哲夫助教授、「日本語
の語順に関する研究」により、関西大学か
ら文学博士の学位を授与される。

四月一日、浦西和彦、関西大学文学部助教
に昇任。

六月五日、「国文学」第五十号（全141頁）
を發行。

十月一日、肥田皓三、関西大学事務を嘱託

(非常勤)され、図書館運営課勤務となる

(昭和59年3月31日まで)。

昭和五十年(一九七五年)

一月、北條秀司、「春日局」により、第三回大谷竹次郎奨励賞を受賞。

四月一日、佐伯哲夫、関西大学文学部教授に昇任。

四月一日、吉田永宏、関西大学文学部非常勤講師となる。

四月一日、吉永登教授、泊園記念会会長に就任。

五月十日、文学博士・服部嘉香元教授が死去。享年八十九歳。

六月二十日、「国文学」第五十一号(全92頁)を發行。

九月一日、木下正俊教授、在外学術研究員となり、西ドイツハンブルグ大学に六カ月間滞在。

九月二十日、「国文学」第五十二号。吉永登先生古稀記念上代文学特集。(全196頁)

を發行。

九月二十日、「吉永登先生古稀記念上代文学論集」を関西大西国文学会刊行図書第三として関西大学国文学会より刊行。

十一月一日、中村幸彦教授、毎日会館国際サロン(毎日ホール7階)で開かれた、関西大学創立90周年記念学術講演会で「西鶴のおもしろさ」を講演。

昭和五十一年(一九七六年)

一月一日、中村幸彦教授、図書館総合計画委員会委員長となる。

一月十七日、吉永登教授、大学院学会第三教室で、最終講義「萬葉の旅」。

三月三十一日、吉永登教授、定年退職。

四月一日、青木晃、関西大学文学部助教に就任。

四月一日、吉永登、関西大学名誉教授の称号を授与される。

四月一日、水田紀久教授、関西大学東西学術研究所研究員となる。

十二月二十五日、「国文学」第五十三号

(全66頁)を發行。

昭和五十二年(一九七七年)

四月一日、青木晃、関西大学文学部教授に昇任。

四月一日、関屋俊彦、関西大学文学部非常勤講師となる。

九月二十五日、「国文学」第五十四号(全115頁)を發行。

十一月一日、青木晃教授、文学部学生主任となる(昭和53年9月30日まで)。

十一月十二日・十三日、日本近世文学会秋季大会が関西大学で開催された。

十一月十二日

京伝黄表紙「鐘は上野哉」考

棚橋 正博

「曲亭蔵書目録」をめぐる

服部 仁

棕梨一雪の散文資料数点

井上 敏幸
三遊亭円朝の翻案物について

「三木章」とは何か 延広 真治
 浜田 啓介

十一月十三日 曲亭馬琴に於ける権八・小紫譚

増外題鑑と八犬伝 内田 保広
 横山 邦治

雨月物語「白峯」の基礎的考察

若木 太一
 「茶神物語」考―秋成の創作態度―
 塚 光一

「世継曾我」考 佐藤 彰

一休和尚説話物について 岡 雅彦

「しゃれ本」名義考 中野 三敏

春日郊行の俳諧―詩俳共通の場として―

田中 道雄
 勝部青魚伝補遺―秋成初期俳諧にふれて―
 大谷 篤蔵

昭和五十三年（一九七八年）

四月一日、吉田永宏、関西大学文学部助教
 授に就任。

十月一日、谷澤水一教授、関西大学文学部
 部長代理に就任（昭和55年3月31日まで）。

十一月一日、青木晃教授、関西大学大学院
 委員会委員になる。

十一月三日、吉永登元教授、勲三等旭日中
 授章を受賞。

十二月二十五日、「国文学」
 第五十五号（全65頁）を発行。

昭和五十四年

（一九七九年）

三月三十一日、中村幸彦・岡
 見正雄教授、関西大学を退職。

四月一日、林省之介、関西大
 学文学部助教に就任。

四月一日、関屋俊彦、関西大
 学文学部専任講師に就任。

四月一日、中村幸彦、関西大
 学東西学術研究所研究員を委
 嘱される（昭和56年3月31日
 まで）。

四月一日、谷澤水一教授、関西大学東西学
 術研究所研究員になる。

昭和五十年国文学科必修科目担任者は次
 のとおりである。

国語学演習	授業科目		単位	期間	年次	担任者	
	配当	配当				第一部	第二部
国文学作品研究Ⅴ	2	2	4	2	2	A水田 正俊 B神堀 忍	水田 紀久
国文学演習Ⅲ	2	2	4	2	2	A吉田 永宏 B関屋 俊彦	浦西 和彦
国文学演習Ⅱ	2	2	3	3	3	A清水 和彦 B水田 紀久	浦西 和彦
国文学演習Ⅰ	2	2	3	3	3	A青木 好子 B林省之介 C吉田 永宏	清水 好子
国文学史特殊講義	4	4	3	3	3	A青木 晃 B井村 哲夫	青木 晃
国語学概論	4	4	3	3	3	木下 正俊	鈴木 弘道
国文学作品研究Ⅳ	4	4	3	3	3	清水 好子	鈴木 弘道
国文学作品研究Ⅲ	4	4	3	3	3	木下 正俊	神堀 忍
国文学作品研究Ⅱ	4	4	2	2	2	A吉永 孝雄 B肥田 晴三	吉永 孝雄
国文学作品研究Ⅰ	4	4	2	2	2	A関屋 俊彦 B鶴崎 裕雄	高橋 喜一
国文学史概説	4	4	2	2	2	関谷 俊彦	関屋 俊彦
専門国語Ⅲ	2	2	2	2	2	BA神堀 忍	林省之介
専門国語Ⅱ	2	2	1	1	1	BA青木 昇	関屋 俊彦
専門国語Ⅰ	2	2	1	1	1	BA谷澤 永一	吉田 永宏

五月五日、山辺の道文学散歩。木下正俊・浦西和彦・関屋俊彦ら参加。

十一月十日、日本近代文学会関西支部第一回大会を関西大学で開催。

十二月二十五日、「国文学」第五十六号（全35頁）を発行。

昭和五十五年（一九八〇年）

四月一日、関屋俊彦、関西大学文学部助教に昇任。

四月一日、青木晃教授、関西大学文学部部長代理になる（昭和56年9月30日まで）。

昭和五十五年国文学科必修科目担任者は下記のとおりである。

国語学演習	国文学作品研究V	国文学演習Ⅲ	国文学演習Ⅱ	国文学演習Ⅰ	国文学史特殊講義	国語学概論	国文学作品研究Ⅳ	国文学作品研究Ⅲ	国文学作品研究Ⅱ	国文学作品研究Ⅰ	国文学史概説	授業科目		単位	期間	年次	担任者		
												専門国語Ⅲ	専門国語Ⅱ				専門国語Ⅰ	第一部	第二部
2	4	2	2	2	4	4	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
4	4	4	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
A木下 B佐伯	○谷澤 ×吉田	A神堀 B関屋	A清水 B水田	A青木 B林省之介 C吉田	井村 哲夫	佐伯 哲夫	清水 好子	木下 正俊	A吉永 B肥田	A鶴崎 B関屋	○谷澤 ×吉田	○谷澤 永一	BA神堀 忍	青木 昇	吉田 永宏	吉田 永宏	第一部	第二部	担任者
哲夫 正俊	永一 永宏	俊彦 忍	好子 紀久	正俊 永宏	哲夫	哲夫	好子	正俊	孝雄 皓三	裕雄 俊彦	永一 永弘	永一	忍	昇	永宏	永宏			
水田 紀久	○谷澤 ×吉田	佐伯 哲夫	清水 好子	青木 晃	鈴木 弘道	佐伯 哲夫	鈴木 弘道	木下 正俊	肥田 皓三	高橋 喜一	関屋 俊彦	関屋 俊彦	神堀 忍	青木 晃	吉田 永宏	永宏			

六

六月三日、談山神社・明日香方面へ音楽の源流を尋ねる文学探訪、木下正俊・清水好子・浦西和彦・関屋俊彦教授、学生五十名参加。

十一月二十日、谷澤永一教授、サントリイ学芸賞を受賞する。

十二月二十五日、「国文学」第五十七号（全57頁）を発行。

昭和五十六年（一九八一年）

二月十七日、中村幸彦元教授、「此ほとり

一夜四歌仙評釈」

（角川書店）により、

読売新聞社から第三

十二回読売文学賞、

研究・翻訳部門」を

受賞。

四月一日、浦西和彦、

関西大学文学部教授

に昇任。

昭和五十六年度国

文学科必修科目担任

者。は下記のとおりで

五月三十一日、関西大学国文学会文学散歩、

山の辺の道・三輪山へ、木下正俊・浦西和

授業科目	単位	期間	年次	担当者	
				第一部	第二部
専門国語Ⅰ	2	2	1	谷澤 永一	谷澤 永一
専門国語Ⅱ	2	2	1	青木 晃	青木 晃
専門国語Ⅲ	2	2	1	神堀 忍	神堀 忍
国文学史概説	4	2	2	清水 好子	黒田 彰
国文学作品研究Ⅰ	4	2	2	A鶴崎 裕雄 B関屋 俊彦	関屋 俊彦
国文学作品研究Ⅱ	4	2	2	A吉永 孝雄 B肥田 皓三	中村 隆嗣
国文学作品研究Ⅲ	4	2	3	木下 正俊	神堀 忍
国文学作品研究Ⅳ	4	2	3	清水 好子	清水 好子
国語学概論	4	2	3	BA佐伯 哲夫	佐伯 哲夫
国文学史特殊講義	4	2	3	井村 哲夫	肥田 皓三
国文学演習Ⅰ	2	2	3	A背木 晃 B林省之介 C浦西 和彦	林省之介
国文学演習Ⅱ	2	2	3	A神堀 忍 B清水 好子 C水田 紀久	浦西 和彦
国文学演習Ⅲ	2	2	4	A浦西 和彦 B関屋 俊彦	水田 紀久
国文学作品研究Ⅴ	4	2	4	浦西 和彦	浦西 和彦
国語学演習	2	2	4	A木下 正俊 B佐伯 哲夫	木下 正俊

彦・林省之介・関屋俊彦ら教員および学生
約二十名参加。

十一月八日、吉永登元教授、伊丹市民文化
賞を受賞。

十二月六日、金剛・葛城文学遺跡探訪。木
下正俊・神堀忍・浦西和彦教授ら参加。

十二月十二日、中村幸彦元教授、関西大学
第一学舎三号館AⅤ-1A教室において開催

された東西学術研究所創立三十周年記念辯
演会に「通俗物雑談―近世翻訳小説につい

て―」を講演。
十二月十九日、関西大学国文学会研究発表

会を国文科合同研究室で開催。
萬葉語の清濁について―大伴家持の場合

（巻十七―二〇）― 堂本 広一
『好色万金丹』とその改竄本

山本 卓
十二月二十五日、「国文学」第五十八号

（全82頁）を發行。

昭和五十七年（一九八二年）

二月十一日、俳優・志村喬・慢性肺気腫による肺性心のため死去。享年七十六歳。

三月二十七日、関西大学国文学会研究発表会を第二会議室で開催。

『番傘』に発表された食満南北の作品

浅井 薫

『松堂雜吟集』と荒川憲章について

大内由紀夫

四月一日、吉田永安、関西大学文学部教授に昇任。

四月一日、乾裕幸、関西大学文学部非常勤講師に嘱任。

昭和五十七年度国文学科必修科目担任者は下記のとおりである。

国語学演習	国文学作品研究(五)	国文学演習(三)	国文学演習(二)	国文学演習(一)	国文学作品研究(四)	国文学作品研究(三)	国文学作品研究(二)	国文学作品研究(一)	国文学史概説	国語学概論	専門国語(三)	専門国語(二)	専門国語(一)	授業科目	
														単位	期間
2	4	2	2	2	4	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
4	4	4	3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1
(3)佐伯哲夫	(2)神堀忍	(1)木下正俊	吉田 永宏	(3)浦西和彦	(2)吉田永宏	(1)関屋俊彦	(3)清水和彦	(2)清水和彦	(1)関屋俊彦	(2)林省之介	(3)浦西和彦	(2)清水和彦	(1)神堀忍	(3)吉田永宏	(2)関屋俊彦
水田 紀久	浦西 和彦	神堀 忍	浦西 和彦	林 省之介	清水 好子	神堀 忍	中村 隆嗣	関屋 俊彦	黒田 彰	佐伯 哲夫	関屋 俊彦	肥田 皓三	吉田 永宏	第一 部	第二 部

十月一日、神堀忍教授、関西大学百年史

編集委員会委員となる（平成8年3月31日まで）。

十月十六日、関西大学国文学会研究発表会を国文合同研究室で開催。

「小敦盛」の伝本と「生田敦盛」

太田 満

『横笛滝口の草子』の古版本について

橋本 直紀

十二月五日、「国文学」第五十九号（全69頁）を發行。

十二月十八日、関西大学国文学会研究発表

会を開催。

昭和五十九年（一九八四年）

一月二十八日、青木智子（昭和54年卒業）

が小説「港へ」で大阪女性文芸賞を受賞。

三月二十八日、関西大学国文学会研究発表

会を国文合同研究室で開催。

高山郷土館蔵写「月みつ花みつ」につい

て 有本 浩子

名古屋の劇作グループについて―指峰堂

グループと玉晴堂連中― 山本 卓

三月三十一日、水田

紀久教授、依願退職。

四月一日、肥田皓三、

関西大学文学部教授

に就任。

昭和五十九年度国

文科必修科目担任者

は次の通りである。

国文学作品研究(三)	国文学作品研究(二)	国文学作品研究(一)	国文学史概説	国語学概論	専門国語(三)	専門国語(二)	専門国語(一)	授業科目	単位	期間	年次	担任者	
												第一部	第二部
4	4	4	4	4	2	2	2					木下 正俊	神堀 忍
2	2	2	2	2	2	2	2					(1)肥田 皓三 (2)肥田 皓三	中村 隆嗣
3	2	2	2	2	1	1	1					(1)鶴崎 裕彰 (2)黒田 彰	黒田 彰
												谷澤 永一	谷澤 永一
												佐伯 哲夫	佐伯 哲夫
												林省之介	林省之介
												青木 晃	青木 晃
												(3)清水 俊彦 (2)清水 俊彦	浦西 和彦
												(1)神堀 好子 (2)神堀 好子	浦西 和彦

五月十三日、大阪文学散歩、天王寺、上町台地方面、肥田皓三教授案内、木下正俊・浦西和彦・関

屋俊彦教授および学生約四十名参加。八月、佐伯哲夫教授、二カ月間、中国上海の復旦大学で日本語学を講ずる。十一月二十五日、「国文学」第六十一号（全80頁）を発行。

卒業演習	国語学演習	国文学作品研究(五)	国文学演習(二)	国文学演習(一)	国文学作品研究(四)	単位	期間	年次	担任者	
									第一部	第二部
2	2	4	2	2	4	4	2	3	清水 好子	清水 好子
2	2	2	2	2	2	2	2	3	清水 好子	清水 好子
4	4	4	3	3	3	3	3	3	清水 好子	清水 好子
(6)佐伯 哲夫	(2)佐伯 哲夫	(1)木下 正俊	(4)浦西 和彦	(8)浦西 和彦	(4)吉田 永宏	清水 好子			清水 好子	清水 好子
(5)谷澤 永一	(1)木下 正俊	(1)木下 正俊	(3)清水 和彦	(7)橋本 直紀	(2)林屋 省之介	清水 好子			清水 好子	清水 好子
(4)神堀 好子	(2)佐伯 哲夫	(1)木下 正俊	(2)清水 和彦	(6)鶴崎 裕彰	(3)林屋 省之介	清水 好子			清水 好子	清水 好子
(3)浦西 和彦	(1)木下 正俊	(1)木下 正俊	(1)神堀 好子	(5)鶴崎 裕彰	(2)林屋 省之介	清水 好子			清水 好子	清水 好子
(2)清水 俊彦	(1)木下 正俊	(1)木下 正俊	(1)神堀 好子	(4)吉田 永宏	(1)神堀 好子	清水 好子			清水 好子	清水 好子
(1)神堀 好子	(1)木下 正俊	(1)木下 正俊	(1)神堀 好子	(3)林屋 省之介	(1)神堀 好子	清水 好子			清水 好子	清水 好子
(1)神堀 好子	(1)木下 正俊	(1)木下 正俊	(1)神堀 好子	(2)肥田 皓三	(1)神堀 好子	清水 好子			清水 好子	清水 好子

十二月十五日、関西
 大学国文学会研究発
 表会を合同研究室で
 開催。

上方歌舞伎「真
 途の飛脚」につい
 て 金岡 郁子
 伊香立生津町の狂
 言について

関屋 俊彦
 昭和六十年

(一九八五年)
 四月一日、昭和六十
 年度国文学科必修科
 目担任者は下記のと
 おりである。

卒業演習	国語学演習	国文学作品研究(五)	国語史	国文学演習(二)	国文学作品研究(四)	国文学作品研究(三)	国文学演習(一)	国文学作品研究(二)	国文学作品研究(一)	国文学史概説	国語学概論	専門国語(三)	専門国語(二)	専門国語(一)	授業科目	単位	授業期間	年次配当	担 任 者		
																			第一部	第二部	
2	2	4	4	2	4	4	2	4	4	4	4	2	2	2							
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2							
4	4	4	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	1							
27肥田 28谷澤 29神堀 30木下 31清水	(2)佐伯 (1)木下	吉田	木下	(4)浦西 (3)清水 (2)神堀 (1)神堀	(4)吉田 (3)肥田 (2)黒田 (1)神堀	(4)吉田 (3)肥田 (2)黒田 (1)神堀	(2)橋本 (1)肥田	(2)鶴崎 (1)鶴崎	谷澤	(2)佐伯 (1)佐伯	神堀	青木	青木	(3)浦西 (2)関屋 (1)清水							
皓三 永一 忍俊 好子	哲夫 正俊	永宏	正俊	和彦 晃 好子 忍	正俊 皓三 晃 忍	正俊 皓三 晃 忍	直紀	裕雄 裕雄	永一	哲夫 哲夫	忍	晃	晃	好子 俊彦 和彦							
(7)浦西 (6)吉田 (5)木下 (4)清水	木下	吉田	木下	関屋	神堀	神堀	中村	橋本	谷澤	佐伯	関屋	青木	青木	浦西							
和彦 永宏 正俊 好子	正俊	永宏	正俊	俊彦	好子 忍	忍	隆嗣	直紀	永一	哲夫	俊彦	晃	晃	和彦							

四月二十日、遼瀋省外国文学学会副理事長・
 王凌氏を案内して造幣局へ夜桜見物、浦西
 和彦・関屋俊彦教授ら学生約十名参加。
 六月一日、関西大学国文学会研究発表会を
 図書館303Rで開催。

中国における日本文学研究 王 凌
 八月一日、木下正俊教授、上海復旦大学に
 おいて二カ月間、日本文学を講義。

十月、肥田皓三教授、「近世子どもの絵本
 集」により、毎日出版文化賞特別賞を受賞。
 十一月一日、佐伯哲夫教授、関西大学大
 学院委員会委員・広報委員会委員を委嘱され
 る(昭和62年10月31日まで)。

十一月十七日、三輪・巻向方面へ文学散歩。
 木下正俊・吉田永宏・浦西和彦・関屋俊彦
 教授ら参加。

十一月二十三日、関西大学国文学会学識演会・
 同総会を太閤園で開催。百五十名参加。司
 会・能智恵一・泉洋子。

「人間通」の時代

谷澤 永一

昭和六十一年（一九八六年）

二月二十日、「国文学」第六十二号（全147頁）を發行。

三月二十七日、浦西和彦教授、「日本プロレタリア文学の研究」により、文学博士の学位を関西大学から授与される。

四月一日、林省之介、関西大学文学部教授に昇任。

四月一日、林省之介教授、関西大学教職課程研究センター研究員になる（平成6年3月31日まで）。

十月一日、神堀忍教授、関西大学学術研究助成基金助成委員会委員を委嘱される（昭和63年9月30日まで）。

十月一日、青木晃教授、文学部学部長代理になる（平成2年9月30日まで）。

十月一日～二日、福井・一乗谷朝倉氏遺跡・亀山城跡・白山神社・丸岡城跡など文学旅行。青木晃・吉田永宏・浦西和彦・林省之介・関屋俊彦ら教員・学生約五十名と参加。

十月十二日、飯田正一元教授、第四

十回芭蕉祭で、財団法人芭蕉翁顕彰会から文部大臣奨励賞を受賞。

十月十八日、関西大学国文学会研究発表会を図書館303Rで開催。

「西鶴諸国はなし」の文体―その説話性を問題として―

中村 隆嗣

十月三十日、「国文学」第六十三号（全172頁）を發行。

昭和六十二年（一九八七年）

四月一日、関屋俊彦、関西大学文学部教授に昇任。

昭和六十二年国文学科必修科目

担任者は下記のとおりである。

第一部

国語史	国文学演習(二)	国文学作品研究(四)	国文学作品研究(三)	国文学演習(一)	国文学作品研究(二)	国文学作品研究(一)	国文学史概説	国語学概論	専門国語(三)	国文学基礎講読(二)	国文学基礎講読(一)	授業科目
4	2	4	4	2	4	4	4	4	2	2	2	単位
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	期間
3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	年次配当
木下正俊	(5)浦西和彦 (4)林省之介 (3)関屋俊彦 (2)清水好子 (1)神堀忍	清水好子	木下正俊	(5)吉田永宏 (4)肥田皓三 (3)菅野美恵子 (2)木下正俊 (1)木下正俊	(2)乾裕幸 (1)肥田皓三	(2)青木晃 (1)青木晃	橋本直紀 吉田永宏	(3)森山卓郎 (2)佐伯哲夫 (1)佐伯哲夫	神堀忍	関屋俊彦	(3)浦西和彦 (2)森山卓郎 (1)清水好子	担当者

卒業演習	国語学演習	国文学演習(二)	国文学作品研究(五)	授業科目
2	2	2	4	単位
2	2	2	2	期間
4	4	4	4	年次配当
66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 関林浦吉青佐肥谷神清水 屋西田木伯田澤堀木下 省 俊之和永哲皓永正好 介彦宏見夫三忍俊子	(2)(1) 佐木下 正俊	(5)(4)(3)(2)(1) 浦乾青清水 西木水堀	吉田 永宏	担当者

第二部

卒業演習	国語学演習	国文学演習(二)	国文学作品研究(五)	国語史	国文学演習(一)	国文学作品研究(四)	国文学作品研究(三)	国文学演習(一)	国文学作品研究(二)	国文学作品研究(一)	国文学史概説	国語学概論	専門国語(一)(二)(三)	国文学基礎講義	授業科目	
2	2	2	4	4	2	4	4	2	4	4	4	4	2	4	単位	
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	期間	
4	4	4	4	3	3	3	3	2	2	2	2	2	1	1	年次配当	
(5) 浦西 和彦	(4) 神堀 忍	佐伯 哲夫	浦西 和彦	吉田 永宏	木下 正俊	関屋 俊彦	菅野美恵子	神堀 忍	神堀 忍	中村 隆嗣	青木 晃	○橋本 直紀 ×吉田 永宏	佐伯 哲夫	橋本 直紀 <small>(昭和36年度以前全考)</small>	浦西 和彦	担当者

五月六日、金子文兵衛元教授、急性気管支炎により死去。享年八十六歳。

十月三日、北條秀司、文化功勞者に選ばれる。

十月十四日、関西大学国文学会研究発表会を図書館303Rで開催。

ベルギーにおける日本語事情 鞍岡 和人

十一月一日、神堀忍教授、関西大学大学院文学研究科長・教育助成基金助成委員会委員・大学院委員会委員に就任(昭和63年9月30日まで)。

昭和六十三年（一九八八年）

一月三十日、「国文学」第六十
四号（全108頁）を發行。

四月一日、乾裕幸、関西大学文
学部教授に就任。

四月一日、山本卓・桂文珍、関
西大学文学部非常勤講師に嘱任。

四月一日、関屋俊彦教授、関西
大学教職課程研究センター研究
員になる。（平成3年3月31日
まで）。

昭和六十三年度国文学科必修
科目担任者は下記のとおり。二
年次より、国文学専修と国語学
専修に分れる。

第一部

国文学作品研究(四)	国文学作品研究(三)	国語学演習(一)	国文学演習(一)	国語法研究	国文学作品研究(二)	国文学作品研究(一)	国文学史概説	国語学概論	専門国語(三)	国文学基礎講読(二)	国文学基礎講読(一)	授業科目
4	4	2	2	4	4	4	4	4	2	2	2	単位
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	授業期間
3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	年次配当
清水好子	木下正俊	乾裕幸	(5)○山本邦夫 (4)○山本裕雄 (3)鶴岡美恵子 (2)菅野美恵子 (1)神堀忍	佐伯哲夫	(2)肥田皓三 (1)乾裕幸	(2)青木裕雄 (1)鶴岡美恵子	(1)○森山卓郎 (2)×吉田直紀 (2)×橋本永宏	(1)森山卓郎 (2)森山卓郎	谷澤永一	関屋俊彦	(3)浦西和彦 (2)佐伯哲夫 (1)清水好子	担当者

卒業演習	国語学演習	国文学演習(三)	国文学作品研究(五)	国語史	国文学演習(二)	授業科目
2	2	2	4	4	2	単位
2	2	2	2	2	2	授業期間
4	4	4	4	3	3	年次配当
83関屋省俊介 82林西 81浦西 80青木 79佐田 78肥田 77谷澤 76神堀 75木下 74清水 73神堀	(2)佐伯哲夫 (1)木下正俊	(5)浦西和彦 (4)乾裕幸 (3)青木裕雄 (2)清水好子 (1)神堀忍	×○田中邦夫 ○吉田直紀	木下正俊	(5)浦西和彦 (4)関屋俊彦 (3)清水好子 (2)佐伯哲夫 (1)木下正俊	担当者

第二部

授業科目	単位	期間	年次	担当者
国文学基礎講読	4	2	1	浦西 和彦
国語学概論	4	2	2	佐伯 哲夫
国文学史概説	4	2	2	橋本 直紀
国文学作品研究(一)	4	2	2	青木 晃
国文学作品研究(二)	4	2	2	乾 裕幸 <small>(※86年度以前全生)</small>
国文学作品研究(三)	4	2	3	神堀 忍
国文学作品研究(四)	4	2	3	菅野美恵子
国文学演習(二)	2	2	3	中村 隆嗣
国語史	4	2	3	佐伯 哲夫
国文学作品研究(五)	4	2	4	○近藤 計三 ×吉田 永宏
国文学演習(三)(一)	2	2	4	<small>(※86年度以前全生)</small> 関屋 俊彦
国語学演習	2	2	4	木下 正俊
卒業演習	2	2	4	④佐伯 哲夫 ⑤浦西 和彦

四月二十一日、清水好子教授、関西大学総合図書館第十二回展示「源氏物語の世界」を講演。
記念講演会で「源氏物語と絵」を講演。

十月一日、神堀忍教授、関西大学学術研究

助成基金助成委員会委員を委嘱される(平成4年9月30日まで)。

十一月二十一日～二十二日、倉敷方面・旧閑谷学校・夢二郷土美術館・

吉備津神社へ文学旅行。吉田永宏・

浦西和彦・林省之介・関屋俊彦教授

および学生約五十名参加。

十一月二十五日、肥田皓三教授、大阪市から文化功労で市民表彰を受彰。

十二月十七日、関西大学国文学会研究発表会を図書館303Rで開催。

『笈の小文』の成立について

浜 美幸

二卷本系宝物集について―宝物集

諸本の系統― 大島 薫

尼理願挽歌―書簡歌としての側

面を中心に 大浜 眞幸

昭和六十四年・平成元年(一九八九年)

一月二十八日、吉永登元教授、心不全のため死去。享年八十三歳。

一月三十日、「国文学」第六十五号(全134

頁)を發行。

三月二十七日、肥田皓三教授、「上方学芸

史叢攷」により、文学博士の学位を関西大

学から授与される。

四月一日、紙谷栄治、関西大学文学部非常

勤講師に囑任。

平成元年度国文学科必修科目担任者は次

頁のとおりである。

国文学特殊講義	国文学作品研究(四)	国文学作品研究(三)	国語学演習(一)	国文学演習(一)	国語法研究	国文学作品研究(二)	国文学作品研究(一)	国文学史概説	国語学概論	専門国語(三)	国文学基礎講説(二)	国文学基礎講説(一)	授業科目
4	4	4	2	2	4	4	4	4	4	2	2	2	単位
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	授業期間
3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	年次配当
西田勤	清水好子	木下正俊	乾裕幸	(5)吉田永宏 (4)山本卓 (3)鶴岡裕雄 (2)菅野美恵子 (1)木下正俊	紙谷栄治	(2)肥田皓三 (1)乾裕幸	(2)鶴岡裕雄 (1)青木晃	(2)吉田永宏 (1)中村隆嗣	(2)佐伯哲夫 (1)佐伯哲夫	谷澤永一 <small>※86年度以前入学者</small>	関屋俊彦	(3)浦西和彦 (2)森山卓郎 (1)清水好子	担当者

卒業演習	国語学演習	国文学演習(三)	国文学作品研究(五)	国語史	国語学演習(二)	国文学演習(二)	国語表現論	国語学特殊講義	授業科目
2	2	2	4	4	2	2	4	4	単位
2	2	2	2	2	2	2	2	2	授業期間
4	4	4	4	3	3	3	3	3	年次配当
84 関屋俊介 83 林之介 82 浦和彦 81 吉田永宏 80 青野裕幸 79 乾裕夫 78 佐伯三夫 77 肥田皓三 76 谷本水一 75 神木好子 74 清水忍 73 清下俊子	(2)佐伯哲夫 (1)木下正俊	(5)浦西和彦 (4)乾裕幸 (3)青木晃 (2)清水好子 (1)神木忍	吉田永宏	木下正俊	紙谷栄治	(5)浦西和彦 (4)肥田皓三 (3)関屋俊彦 (2)清水好子 (1)神木忍	(2)平澤啓 (1)平澤啓	佐伯哲夫	担当者

第一部

授業科目	単位	期間	年次	担当者
国文学基礎講読	4	2	1	浦西 和彦
国語学概論	4	2	2	佐伯 哲夫
国文学史概説	4	2	2	橋本 直紀
国文学作品研究(一)	4	2	2	青木 晃
国文学作品研究(二)	4	2	3	林 省之介
国文学作品研究(三)	4	2	3	神堀 忍
国文学作品研究(四)	4	2	3	菅野美恵子
国文学演習(一)	2	2	3	関屋 俊彦
国文学演習(二)	2	2	3	中村 隆嗣 <small>(昭和86年度以前入学生)</small>
国語	4	2	3	佐伯 哲夫
国文学作品研究(五)	4	2	4	吉田 永宏
国文学演習(三)	2	2	4	関屋 俊彦
国語学演習	2	2	4	木下 正俊
卒業演習	2	2	4	③関屋 俊彦 ④浦西 和彦

江戸歌舞伎絵本番付考―安永期における展開― 神楽岡幼子

六月二十六日、関西大学国文学会講演会・同窓会を太閤園で開催。参加者会百五十名。

現在の日本・これからの日本

谷澤 永一

九月十八日・十九日、金沢文学探訪旅行、吉田永宏・浦西和彦教授および学生二十数名参加。

十月一日、吉田永宏教授、関西大学図書館長に就任(平成3年9月30日まで)。

十月一日、浦西和彦教授、関西大学大学院委員会委員を委嘱される(平成3年9月30日まで)。

十月二十一日、小島吉雄元教授死去。享年八十八歳。

十二月十六日、関西大学国文学会研究発表

会を図書館303Rで開催。

白描伊勢物語絵巻に見られる伊勢物語の

享受について 石原 美紀

五月二十日、関西大学国文学会研究発表会

を図書館303Rで開催。

五月二十日、小島吉雄元教授死去。享年八十八歳。

十月二十一日、小島吉雄元教授死去。享年八十八歳。

十二月十六日、関西大学国文学会研究発表

会を図書館303Rで開催。

白描伊勢物語絵巻に見られる伊勢物語の

享受について 石原 美紀

ローマ字を含む複合語について 福島 秀見

家持の讃歌の方法―四・五・六番歌をめぐる― 大浜 真幸

十二月二十日、「国文学」第六十六号(全91頁)を発行。

平成二年(一九九〇年)

二月六日、岡見正雄元教授死去。享年七十六歳。

三月三十一日、肥田皓三教授、関西大学文学部を依願退職。

四月一日、山本卓、関西大学文学部専任講師に就任。

四月一日、吉田永宏教授、関西大学情報処理センター委員会委員になる(平成3年9月30日まで)。

四月一日、浦西和彦教授、関西大学情報処理センター委員会委員に就任(平成9年9月30日まで)。

四月一日、大浜真幸、関西大学部非常勤講

師に就任。

四月一日、吉田永宏教授、関西大学情報処理センター委員会委員になる(平成3年9月30日まで)。

四月一日、浦西和彦教授、関西大学情報処理センター委員会委員に就任(平成9年9月30日まで)。

四月一日、大浜真幸、関西大学部非常勤講

師に就任。

四月一日、吉田永宏教授、関西大学情報処理センター委員会委員になる(平成3年9月30日まで)。

四月一日、浦西和彦教授、関西大学情報処理センター委員会委員に就任(平成9年9月30日まで)。

四月一日、大浜真幸、関西大学部非常勤講

師に就任。

師に嘱任。

平成二年度国文学科必修科
目担任者は下表のとおりで
ある。

第一部

国文学特殊講義	国文学作品研究(四)	国文学作品研究(三)	国語学演習(一)	国文学演習(一)	国語法研究	国文学作品研究(二)	国文学作品研究(一)	国文学史概説	国語学概論	専門国語(三)	国文学基礎講読(二)	国文学基礎講読(一)	授業科目	
4	4	4	2	2	4	4	4	4	4	2	2	2	単位	
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	期間	
3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	年次 配当	
西田 勲	清水 好子	木下 正俊	佐伯 哲夫	(5)吉田 (4)乾裕 (3)鶴裕 (2)菅美 (1)大野真 幸子	紙谷 栄治	(2)山本 (1)乾裕 幸卓	(2)鶴裕 (1)青雄 見	(2)〇山本 ×吉田永 宏卓	(1)〇山本 ×吉田永 宏卓	(2)佐伯 哲夫	家 86年度以前入学者 谷澤 永一 忍	神堀 和彦	(3)浦西 (2)佐伯 (1)清水 好子 哲夫	担 当 者

卒業演習	(国語学演習(三))	国文学演習(三)	国文学作品研究(五)	国語史	国語学演習(二)	国文学演習(二)	国語表現論	国語学特殊講義	授業科目
2	2	2	4	4	2	2	4	4	単位
2	2	2	2	2	2	2	2	2	期間
4	4	4	4	3	3	3	3	3	年次 配当
04山本 03関省 02林俊 01浦之 00吉和 29吉永 28青宏 27佐裕 26佐哲 25谷永 24神木 23清水 下子	木下 正俊	(5)浦西 (4)乾裕 (3)関屋 (2)清水 (1)神堀 忍	吉田 永宏	木下 正俊	紙谷 栄治	(5)浦西 (4)山本 (3)青卓 (2)清水 (1)木下 正俊	(2)平澤 啓	佐伯 哲夫	担 当 者

第二部

授業科目	単位	期間	年次	担当者
国文学基礎講読	4	2	1	中村 隆嗣
国語学概論	4	2	2	木下 正俊
国文学史概説	4	2	2	関屋 俊彦
国文学作品研究(一)	4	2	2	青木 晃
国文学作品研究(二)	4	2	3	林 省之介
国文学作品研究(三)	4	2	3	神堀 忍
国文学作品研究(四)	4	2	3	泉 紀子
国文学演習(一)	2	2	3	関屋 俊彦
国語史	4	2	3	佐伯 哲夫
国文学作品研究(五)	4	2	4	吉田 永宏
国語学購読演習	4	2	4	浦西 和彦
国文学演習(二)	2	2	4	中村 隆嗣

十月一日、浦西和彦教授、関西大学文学部学生相談主事に就任(平成3年9月30日まで)。

十一月十三日、谷澤永一教授、関西大学百周年記念会館落成記念国際シンポジウム「世界の中の日本人」近代日本の表層と深層」で、アール・マイナー、司馬遼太郎と鼎談。

十一月十八日、谷澤永一教授、大阪市の市民表彰を受彰。

十一月三十日、「国文学」第六十七号(全80頁)を発行。

十二月一日、関西大学国文学会研究発表会を図書館303Rで開催。

往生要集注釈史の二面―宝物集との関係―

大島 薫

上代語「がね」について 北井 勝也

希求表現における「もし」の用法 鍵本 有理

鍵本 有理

六月一日、神堀忍教授、関西大学協議会協議員を委嘱される(平成4年5月31日まで)。

七月二十三日・二十四日、尾道・倉敷方面

へ文学旅行。神堀忍・浦西和彦・関屋俊彦・

山本卓ら教員と学生約五十名参加。

平成三年(一九九一年)

三月三十一日、谷澤永一教授、関西大学文学部を依願退職。

四月一日、紙谷榮治・大浜眞幸・関西大学文学部助教授に就任。

四月一日、谷澤永一、関西大学名誉教授の称号を授与される。

四月一日、遠藤邦基、関西大学文学部非常勤講師に嘱任。

平成三年度国文学科必修科目担任者は次頁のとおりである。

国語学特殊講義	国文学特殊講義	国文学作品研究(四)	国文学作品研究(三)	国語学演習(一)	国文学演習(一)	国語法研究	国文学作品研究(二)	国文学作品研究(一)	国文学史概説	国語学概論	国文学基礎講説(二)	国文学基礎講説(一)	授業科目		
4	4	4	4	2	2	4	4	4	4	4	2	2	単位		
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	授業期間		
3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	配当年次		
佐伯 哲夫	西田 勤	清水 好子	(2)(1)木下 神堀 正俊	佐伯 哲夫	(5)(4)(3)浦山鶴 西本 裕雄	紙谷 榮治	(2)(1)山本 卓卓	(2)(1)青木 鶴崎 裕雄	×片桐 洋一	(2)○吉田 永宏	(1)○吉田 永宏	(2)(1)森山 佐伯 哲夫	閑屋 俊彦	(3)(2)(1)浦西大 佐伯 哲夫 和彦 眞幸	担当者

卒業演習	国語学演習(三)	国文学演習(三)	国文学作品研究(五)	国語史	国語学演習(二)	国文学演習(二)	国語表現論	授業科目						
2	2	2	4	4	2	2	4	単位						
2	2	2	2	2	2	2	2	授業期間						
4	4	4	4	4	3	3	3	配当年次						
63 紙谷 64 林之 63 山本 63 関本 60 浦屋 60 吉西 60 青田 60 佐木 60 青木 60 大木 60 神伯 60 大濱 60 神下 64 清水 木下	木下 正俊	(5)(4)(3)吉中 田村 永隆	(3)(2)(1)関清 屋水 俊彦 好忍	吉田 永宏	木下 正俊	紙谷 榮治	(5)(4)(3)浦山鶴 西本 裕雄	(2)○吉田 永宏	(1)○吉田 永宏	(2)(1)森山 佐伯 哲夫	閑屋 俊彦	(2)(1)木下 神堀 正俊	(2)(1)紙谷 榮治	担当者

第二部

授業科目	単位	期間	年次	担当者
国文学基礎講読	4	2	1	大濱 眞幸
国語学概論	4	2	2	佐伯 哲夫
国文学史概説	4	2	2	林省之介
国文学作品研究(一)	4	2	2	青木 晃
国文学作品研究(二)	4	2	3	林省之介
国文学作品研究(三)	4	2	3	神堀 忍
国文学作品研究(四)	4	2	3	泉 紀子
国文学演習(一)	2	2	3	笠井 昇
国語史	4	2	3	紙谷 榮治
国文学作品研究(五)	4	2	4	吉田 永宏
国語学講読演習	4	2	4	浦西 和彦
国文学演習(二)	2	2	4	中村 隆嗣

四月十一日、飯田正一元教授死去。享年九十歳。

五月十八日、関西大学国文学会研究発表会を図書館303Rで開催。

高市皇子挽歌における壬申の乱の叙述をめぐって
阿部 園子

青表紙本・河内本の文体と方法

石原 美紀

五月二十六日、奈良東大寺・春日野

へ新人生セミナー旅行。吉田永宏・

浦西和彦・大浜眞幸・山本卓ら教員

および学生十数名参加。

六月八日、日本近代文学会関西支部

大会が関西大学百周年記念会館で開

催される。

十月一日、浦西和彦教授、関西大学

図書館長に就任(平成9年9月30日

まで)。

十月一日、片桐洋一、関西大学文学

部教授に就任。

十二月七日、関西大学国文学会研究

発表会を図書館303Rで開催。

昭和十年代「散文精神」の経緯

谷口優美

萬葉集動詞の「アスペクト」「たり」の用

法をめぐって

鍵本 有理

十二月二十日、「国文学」第六十八号(全

229頁)を発行。

十二月二十日、「清水好子・谷澤永一両教

授退職記念・国文学論集」を関西大学国文

学会刊行図書第四として関西大学国文学会

より刊行。

平成四年(一九九二年)

三月二十二日、清水好子教授、最終講義

「源氏物語と音楽」を百周年記念会館大ホー

ルで行なう。同日、清水好子教授の退職記

念同窓会を開催。参加者約百五十名。

三月二十三日、片桐洋一教授、「古今和歌

集の研究」により、関西大学博士(文学)

の学位を授与される。

三月三十一日、清水好子教授、関西大学文

学部を定年退職。

四月一日、紙谷榮治、関西大学文学部教授

に昇任。

四月二十六日、大阪文学散歩、浦西和彦・

大浜眞幸ら教員および学生二十名参加。

平成四年度国文学科必修科目担任者は次頁

のとおりである。

第二部

授業科目	単位	期間	年次	担当者
国文学基礎講読	4	2	1	大濱 眞幸
国語学概論	4	2	2	佐伯 哲夫
国文学史概説	4	2	2	中村 隆嗣
国文学作品研究(一)	4	2	2	青木 晃
国文学作品研究(二)	4	2	3	乾 裕幸
国文学作品研究(三)	4	2	3	神堀 忍
国文学作品研究(四)	4	2	3	泉 紀子
国文学演習(一)	2	2	3	浦西 和彦
国語史	4	2	3	紙谷 榮治
国文学作品研究(五)	4	2	4	吉田 永宏
国語学講読演習	4	2	4	片桐 洋一
国文学演習(二)	2	2	4	関屋 俊彦

九月一日、平野健次元教授が心不全で死去。
享年六十三歳。

十月一日、片桐洋一教授、関西大学出版委員会委員を委嘱される(平成6年9月30日まで)。

十月一日、吉田永宏教授、関西大学大学院

委員会委員になる(平成6年9月30日まで)。

十二月十二日、関西大学国文学会研究会を図書館303Rで開催。

大伴家持の「ますらを」意識をめぐるって 安藤智佳子

佐藤春夫の「のん・しゃらん記録」について 星野 茂樹

十二月二十日、「国文学」第六十九号(全127頁)を發行。

平成五年(一九九三年)

三月二十三日 関屋俊彦教授、「狂言史の基礎的研究」によ

り、関西大学から関西大学博士(文学)の学位を授与される。

四月一日、関屋俊彦教授、文学部学生相談主事に就任(平成6年9月30日まで)。

四月一日、山本卓、関西大学文学部助教授に昇任。

四月一日、吉田永宏教授、保健体育委員会委員長になる(平成7年3月31日まで)。

平成五年度国文学科必修科目担任者は次のとおりである。

第一部

授業科目	単位	期間	年次	担当者
国文学基礎講読(一)	2	2	1	(1)石原 美紀 (2)大島 薫 (3)神楽岡幼子
国文学基礎講読(二)	2	2	1	林 省之介
国語学概論	4	2	1	(1)佐伯 哲夫 (2)佐伯 哲夫
国文学史概説	4	2	2	(1)○山本 卓 (2)×吉田 永宏 ×吉田 永宏
国文学作品研究(一)	4	2	2	(1)青木 晃 (2)関屋 俊彦 (3)関屋 俊彦
国文学作品研究(二)	4	2	2	(1)乾 裕幸 (2)山本 裕幸 (3)乾 裕幸
国語法研究	4	2	2	小矢野 哲夫

第一部 天六から千里山へ学会移転

授業科目	単位	期間	年次	担当者
国文学基礎講読	4	2	1	大濱 眞幸
国語学概論	4	2	2	佐伯 哲夫
国文学史概説	4	2	2	中村 隆嗣
国文学作品研究(一)	4	2	2	青木 晃
国文学作品研究(二)	4	2	3	乾 裕幸
国文学作品研究(三)	4	2	3	大濱 眞幸
国文学作品研究(四)	4	2	3	泉 紀子
国文学演習(一)	2	2	3	笠井 昇
国語史	4	2	3	紙谷 榮治
国文学作品研究(五)	4	2	4	吉田 永宏
国語学講読演習	4	2	4	片桐 洋一
国文学演習(二)	2	2	4	関屋 俊彦

四月三十日、関西大学国文学会研究発表会
を図書館303Rで開催。

芭蕉の存疑句―重厚蒐集の芭蕉発句をめぐって―
竹内千代子

平安後期勅撰集における和泉式部歌享受
藤川 晶子

六月一日、吉田永宏教授、関西大学協

議会協議員になる(平成8年5月31日まで)。

六月三十日、「国文学」第七十一号(全168頁)を發行。

九月三日、関西平安文学会を
関西大学百周年会館で開催。

十月十三日、十四日、三年次生宿泊セミナーを高槻・高岳館で実施。

十一月二十日、「国文学」第七十二号(全87頁)を發行。
平成七年(一九九五年)

三月二十三日、関西大学国文学会研究発表会を図書館303Rで開催。

『平安二十歌仙』にみる芸能の句に関する一考察
竹内千代子

類聚古集の本文改変 北井 勝也

古今集声点による解釈の一方
鍵本 有理

四月一日、紙谷榮治教授、関西大学広報委員会委員になる(平成8年9月30日まで)。

平成七年度国文学科必修科目担任者は次のとおりである。

第一部 ※は92年度以前入学生適用

授業科目	単位	期間	年次	担当者
国文学基礎講読(一)	2	2	1	(1)石原 美紀 (2)大島 有理 (3)鍵本 有理
国文学基礎講読(二)	2	2	1	青木 晃
国語学概論	4	2	1	(1)紙谷 榮治 (2)紙谷 榮治
国文学史概説	4	2	2	(1)中村 隆嗣 (2)中村 隆嗣 (3)吉田 永宏
中世文学作品研究(一)	4	2	2	(1)青木 晃 (2)関屋 俊彦 (3)大島 有理
※国文学作品研究(二)	4	2	2	(1)乾 裕幸 (2)山本 隆嗣 (3)中村 隆嗣
近世文学作品研究	4	2	2	(1)神堀 美紀 (2)石原 美紀 (3)大島 有理 (4)竹内 千代子 (5)浦西 和彦 (6)浦西 和彦
国文学演習(一)	2	2	2	

国語史	国語学演習(二)	国語表現論	古代語研究	国語学特殊講義	国語学演習(一)	近代語研究	国語法研究	国文学演習(三)	国文学作品研究(五)	国文学演習(二)	※国文学作品研究(三)	上代文学作品研究(四)	※国文学作品研究(四)	国文学特殊講義	授業科目
4	2	4	4	4	2	4	4	2	4	2	4	4	4	4	単位
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	授業期間
4	3	3	3	3	2	2	2	4	4	3	3	3	3	3	配当年次
毛利正守	木下正俊	(2)佐伯哲夫 (1)佐伯哲夫	毛利正守	小矢野哲夫	紙谷榮治	佐伯哲夫	小矢野哲夫	×(5)吉田永宏 (4)浦田裕幸 (3)乾屋洋一 (2)片桐俊彦 (1)木下正俊	堀部功夫	(6)浦西和彦 (5)玉井敬之 (4)山本卓 (3)青木本 (2)片桐一 (1)木下俊	(2)神堀正忍 (1)木下正俊	(2)泉紀子 (1)片桐洋一	西田勤	担当者	

国文学演習(一)	※国文学作品研究(四)	中古文学作品研究(三)	※国文学作品研究(三)	上代文学作品研究(二)	※国文学作品研究(二)	近世文学作品研究(一)	※国文学作品研究(一)	中世文学作品研究	国文学史概説	国語学概論	国文学基礎講読	授業科目
2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	単位
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	授業期間
3	3	3	3	3	2	2	2	1	1	1	1	配当年次
笠井昇	泉紀子	神堀忍	乾裕幸	青木晃	中村隆嗣	佐伯哲夫	鍵本有理	担当者				

第二部

★は92年度以前入学生適用

卒業演習	国語学演習(三)	授業科目
2	2	単位
2	2	授業期間
4	4	配当年次
03山本卓 00林省介 09閩屋俊彦 08佐伯哲夫 07木下正忍 06神堀忍 05紙谷榮治 04片桐洋一 03浦西和彦 02乾裕幸 01青木晃	佐伯哲夫	担当者

授業科目	単位	期間	年次	担当者
国語史	4	2	3	紙谷 榮治
国文学作品研究(五)	4	2	4	○浦西 和彦 ×吉田 永宏
国語学講読演習	4	2	4	片桐 洋一
国文学演習(二)	2	2	4	関屋 俊彦

六月九日、一年次生文楽鑑賞「菅原伝授手習鑑」(国立文楽劇場)。学生約百名参加。

十月一日、紙谷榮治教授、広報委員会副委員長に就任(平成8年9月30日まで)。

十月十四日～十七日、萬葉学会第四十八回全国大会を関西大学百周年記念会館で開催する。

第一日 公開講演会

萬葉集と木簡

東野 治之

廣瀬本萬葉集―その跡のことなど―

木下 正俊

第二日 研究発表会

宣命の文章構造

池田 幸恵

対象語格を表す「の」「が」について

平成八年(一九九六年)

鍵本 有理
アママトアマヒ 吉野 政治
家持歌の享受をめくって―公任の場合を中心に 新谷 秀夫
神亀五年難波宮行幸時作歌 影山 尚之

『萬葉代匠記』「俗中の真」―契沖と真言宗の言語観― 井野口 孝
「足一騰宮」考 柏谷 興紀

第三日・第四日 萬葉研修旅行 「難波津・住吉・葛城・平群谷」方面を探訪

十月十九日・二十日、三年次生宿泊セミナーを高槻・高岳館で実施。
十二月二十日、「国文学」第七十三号(全296頁)を発行。

十二月二十日、「木下正俊・佐伯哲夫両教授退職記念国文学論集」を関西大学国文学会刊行図書第五として、関西大学国文学会より刊行。

三月二日、木下正俊・佐伯哲夫教授最終講義並びに国文学科同窓会が百周年記念会館で開催された。参加者約百名。
三月二十三日、紙谷榮治教授、「現代日本語助動詞の研究」により、関西大学から関西大学博士(文学)の学位を授与される。
三月三十一日、木下正俊・佐伯哲夫教授、関西大学文学部を退職。
四月一日、遠藤邦基・田中登・関西大学文学部教授に就任。
四月一日、大浜眞幸、関西大学文学部教授に昇任。
四月一日、神堀忍教授、関西大学年史編纂委員会副委員長に就任(平成10年3月31日まで)。
四月一日、吉田永宏教授、関西大学人権問題研究室研究員になる(平成10年3月31日まで)。
平成八年度国文学科必修科目担任者は次頁のとおりである。

国文学演習(二)	上代文学作品研究	中古文学作品研究	国文学特殊講義	国文学演習(一)	近世文学作品研究	中世文学作品研究	国文学史概説	国語学概論	国文学基礎講読(二)	国文学基礎講読(一)	授業科目
2	4	4	4	2	4	4	4	4	2	2	単位
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	授業期間
3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	配当年次
(6)吉田永宏 (5)吉田永宏 (4)吉田永宏 (3)山本卓 (2)青田見 (1)大濱幸	(2)大濱眞幸 (1)神堀忍	(2)石原美紀 (1)田中登	西田勤	(5)浦西和彦 (4)竹内千代 (3)大島薫 (2)石原美紀 (1)神堀忍	(3)山林省之介 (2)山本裕卓 (1)乾裕幸	(3)大島薫彦 (2)関木俊彦 (1)青木隆見	(2)大屋永宏 (1)中村永宏	(2)遠藤邦基 (1)速藤邦基	大濱眞幸	(3)山本有理 (2)関屋俊彦 (1)関屋卓彦	担当者

卒業演習	国語学演習(三)	国語史	国語学演習(二)	国語表現論	古代語研究	国語学特殊講義	国語学演習(一)	近代語研究	国語法研究	国文学演習(三)	近代文学作品研究	授業科目
2	2	4	2	4	4	4	2	4	4	2	4	単位
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	授業期間
4	4	4	3	3	3	3	2	2	2	4	4	配当年次
63遠藤邦基 62藤榮治 61紙谷永彦 60浦西卓 59吉田見 58山本裕 57林之介 56乾屋俊 55関木幸 54青田見 53大濱眞幸 52神堀忍	紙谷榮治	毛利正守	遠藤邦基	(2)紙谷榮治 (1)紙谷榮治	毛利正守	小矢野哲夫	鍵本有理	紙谷榮治	小矢野哲夫	(6)浦西和彦 (5)吉田永宏 (4)乾屋俊彦 (3)関屋登 (2)田中眞幸 (1)神堀忍	(2)堀部功夫 (1)吉田永宏	担当者

第二部

★は92年度以前入学生適用

授業科目	単位	期間	年次	担当者
国文学基礎講読	4	2	1	山本 卓
国語学概論	4	2	2	遠藤 邦基
国文学史概説	4	2	2	中村 隆嗣
中世文学作品研究	4	2	2	青木 晃
※国文学作品研究(一)	4	2	3	乾 裕幸
※国文学作品研究(二)	4	2	3	大濱 眞幸
※国文学作品研究(三)	4	2	3	泉 紀子
※国文学作品研究(四)	4	2	3	笠井 昇
国文学演習(一)	2	2	3	紙谷 榮治
国語	4	2	3	吉田 永宏
近代文学作品研究	4	2	4	吉田 永宏
※国文学作品研究(五)	4	2	4	鍵本 有理
国語学購読演習	4	2	4	関屋 俊彦
国文学演習(二)	2	2	4	関屋 俊彦

田中登・大浜眞幸教授・学生約二十名参加。

六月七日、一年次生文楽鑑賞「三十三間堂棟由来」(国立文楽劇場)。

八月三十日、「国文学」第七十四号

(全97頁)を發行。

十月一日、吉田永宏教授、関西大学

自己点検・評価委員会委員になる

(平成10年3月31日まで)。

十月十八日・十九日、三年次生宿泊

セミナーを高槻・高岳館で実施。神

堀忍・乾裕幸・吉田永宏・浦西和彦・

関屋俊彦・紙谷榮治・山本卓ら教員

および学生約百名参加。

十一月三日、清水好子元教授、勲四

等瑞宝章を受章。

四月四日、木下正俊・佐伯哲夫、関西大学

名誉教授の称号が授与された。

四月二十一日、山本卓助教授の案内で大阪

文学遺跡探訪(桜宮・天満・中之島界限)。

吉田永宏・浦西和彦・関屋俊彦・紙谷榮治・

平成九年(一九九七年)

三月十五日、「国文学」第七十五号(全176

頁)を發行。

三月二十二日、関西大学国文学会講演・研

究発表会を図書館ホールで開催。

宇野浩一「枯木のある風景」論

増田 周子

「後撰集正義」の成立と「僻案抄」

藤川 晶子

神楽歌における一考察 安藤智佳子

「夜半の疫覚」末尾欠巻部の資料につい

て(講演) 田中 登

平成九年度国文学科必修科目担当者は次頁

の通りである。

十一月二十三日、大学院生、榎原・大宇陀

文学遺跡探訪、吉田永宏・浦西和彦・田中

登・大浜眞幸教授・院生十数名参加。

上代文学作品研究	中古文学作品研究	国文学特殊講義	近世文学作品研究	中世文学作品研究	国文学基礎演習	国文学史概説	国語学概論	国文学基礎講説(二)	国文学基礎講説(一)	授業科目			
4	4	4	4	4	2	4	4	2	2	単位			
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	期間			
3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	年次 配当			
(2)(1)神大 大演 堀 幸忍	(2)(1)田中 片桐 洋一 登一	西田 勤	(3)(2)(1)乾山 乾本 裕幸 裕卓	(3)(2)(1)青木 関屋 俊彦 見	(8)(7)(6)神山 田中 樂岡 幼 登子	(5)(4)石原 榊原 美見 卓紀	(3)(2)(1)北井 藤川 晶勝 也	(2)○中村 隆嗣 永宏	(1)○中村 隆嗣 永宏	(2)(1)遠藤 邦基	大濱 眞幸	(3)(2)(1)片乾 浦西 和裕 洋一	担当者

国語学演習(三)	国語史	国語学演習(二)	国語表現論	古代語研究	国語学特殊講義	国語学演習(一)	近代語研究	国語法研究	国文学演習(三)	近代文学作品研究	国文学演習(二)	授業科目	
2	4	2	4	4	4	2	4	4	2	4	2	単位	
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	期間	
4	4	3	3	3	3	2	2	2	4	4	3	年次 配当	
遠藤 邦基	毛利 正守	遠藤 邦基	(2)(1)奥野 陽子 陽子	毛利 正守	小矢野哲夫	(2)(1)鍵本 有理	橋本 行洋	小矢野哲夫	(6)(5)(4)吉浦 田西 乾屋 一 永和 裕俊 彦 宏 幸 彦 忍	(2)(1)堀部 吉田 功夫 永宏	(6)(5)(4)吉浦 田西 本卓 永宏 彦 見	(3)(2)(1)青山 木中 眞幸 大濱 登	担当者

卒業演習	授業科目	単位	期間	年次	担当者
2		2	2	4	01青木 見 02乾 裕幸 03浦西 彦 04大濱 幸 05遠藤 幸 06片桐 忍 07神堀 俊彦 08関屋 卓 09田中 永宏 10吉田 登 11山本 卓

第二部

※は92年度以前入学生適用

国文学基礎講読	国文学史概説	国語学概論	国文学史概説	中世文学作品研究	※国文学作品研究(一)	近世文学作品研究(二)	※国文学作品研究(三)	上代文学作品研究	※国文学作品研究(四)	中古文学作品研究	国文学演習(一)	国史
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	4
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3
山本 卓	鎌本 有理	中村 隆嗣	青木 晃	林省之介	大濱 眞幸	泉 紀子	笠井 昇	遠藤 邦基				

近代文学作品研究	※国文学作品研究(五)	国語学講読演習	国文学演習(二)	単位	期間	年次	担当者
4	4	4	4	2	2	4	吉田 永宏 橋本 行洋 関屋 俊彦

七月末現在の国文学科在籍学生数は次の通りである。

学年	第一部		第二部	
	男	女	男	女
第一学年	34名	79名	5名	2名
第二学年	68名	109名	6名	4名
第三学年	36名	80名	13名	4名
第四学年	44名	88名	7名	3名
残留生	24名	5名	2名	1名
計	34名	79名	5名	2名
計	113名	177名	116名	17名
計	132名	229名	132名	29名
計	249名	391名	249名	391名

一部 567名 二部 47名 総計 614名

四月十三日、片桐洋一教授の案内で、大阪文学探訪(大応寺・円珠庵・誓願寺・四天王寺宝物館)。神堀忍・吉田永宏・浦西和彦・田中登・山本卓教授・学生十五名参加。
六月十二日、一年生文楽鑑賞「絵本太功記」(国立文楽劇場)

九月二十一日、関西大学国文学科創設五十年記念講演会・同窓会を太閤園(ガーデンホール)で開催予定。

校正追記

昭和三十九年（一九六四年）

中江俊夫（本名・安田 勤、昭和三十年卒）
が『20の詩と鎮魂歌』（思潮社）により、
第四回中日詩賞を受賞する。

昭和四十七年（一九七二年）

中江俊夫が詩集『語彙集』（思潮社）によ
り、第三回高見順賞を受賞する。

（浦西和彦・作成）